

阪大NOW

地域に生き世界に伸びる

No.93
2006

12月号

トピックス

荒田吉明名誉教授 文化勲章受章 バンコク教育研究センター開所式開催

クローズアップ

地域・社会に開かれた生命科学・生命工学
研究の新しいステージ
—大阪大学バイオ関連多目的研究施設—

ナウススペシャル

「あなたの意見が、阪大を変える」
—大阪大学学生の意識と生活—



大阪大学広報誌

目次

トピックス.....	2
クローズアップ.....	4
役員室だより.....	8
ナウスPECIAL.....	16
キャンパスニュース.....	18
表彰等.....	39
人事.....	44
名誉教授リレー随想.....	46
訃報.....	48
インフォメーション.....	49
インタビュー.....	52
海外レポート.....	54
クラブ&サークル紹介.....	58
ガイドマップ.....	59
交流協定大学紹介.....	60



表紙写真：豊中キャンパス正門前石柱
撮 影：理学研究科助教授 山本 仁
表紙デザイン：株式会社ココティエ

荒田吉明名誉教授 文化



11月3日皇居にて（毎日新聞社提供）

バンコク教育研究センター



勲章受章

- ハイテク加工の生みの親 工学系では初の受章 -

荒田吉明名誉教授が2006年度文化勲章を受章され、11月3日宮中において親授式が行われました。天皇陛下から文化勲章が授与され、引き続き内閣総理大臣から勲記が伝達されました。

荒田名誉教授は、長年にわたり高温工学・溶接工学の研究を続けてこられ、多大な業績をあげられました。

長年の「超高エネルギー密度熱源」に関する基礎的研究により、高エネルギー密度の新熱源を開発・実用するとともに、これを新素材や高機能複合材など各種の材料の熱加工に応用し、従来明らかにされていなかった熱加工特性を解明されました。高温工学と溶接工学に関する新しい技術分野と学問体系とを確立すると同時に日本で初めて公開による核融合反応に関する実験に成功するなど、世界的な成果をあげられました。

これらの研究成果は、原子力関連施設はもとより、ロケット、超深海船などの大型精密構造物建設への応用をはじめ、大規模集積回路（超LSI）などの超微細加工に至るまで、中核的な溶接・加工技術として世界的に広く活用され、「ハイテク加工」の生みの親としてもその工学的貢献は極めて大きいと評価されたものです。



プロフィール：1924年、京都府生まれ。1949年、大阪帝国大学工学部溶接工学科卒業。大阪大学工学部教授を経て大阪大学溶接工学研究所教授。退官するまで10年間は、同研究所長。1988年退官。同年荒田記念館設立。文化功労者・日本学士院会員。

開所式開催

10月16日、タイ国・バンコクにおいて、宮原秀夫総長をはじめ、理事、総長補佐等の出席のもと、バンコク教育研究センターの開所式が盛大に行われました。同センターは、学生・研究者の交流、共同研究の推進、そして大阪大学のプレゼンスを高め、学生・研究交流の一層の推進という好循環を期すものであります。さらに、バンコクという立地を活かし、東南アジア全体のハブの役割を担っていきます。

(詳しくはキャンパスニュース(24ページ)をご覧ください。)



開所式で挨拶する宮原総長

地域・社会に開かれた生命科学・生命工学研究の新しいステージ

- 大阪大学バイオ関連多目的研究施設の誕生 -

大阪大学バイオ関連多目的研究施設長 阿久津 秀 雄

大阪大学バイオ関連多目的研究施設の誕生

平成 18 年 4 月、本学吹田キャンパスから少し離れた吹田市古江台に大阪大学バイオ関連多目的研究施設（Open Laboratories for Advanced Bioscience and Biotechnology, 略称 OLABB）が誕生しました。本施設は株式会社生物分子工学研究所および技術研究組合生物分子工学研究所から研究施設の寄贈を受けて創設されたものです。

この建物は、昭和 61 年に発足した株式会社蛋白質工学研究所の施設として建築され、平成 7 年に株式会社生物分子工学研究所、平成 13 年には技術研究組合生物分子工学研究所に受け継がれてきました。当時米国が主張していた「基礎研究ただ乗り論」に対応するものとして通商産業省（現在の経済産業省）の主導により創られた基盤技術研究促進制度に基づいて、タンパク質工学の基礎研究を進める拠点として出発しました。ここにおける研究活動は産業界の支援を受けつつ、蛋白質を中心とした構造生物学、蛋白質工学の基礎研究で世界的な業績を挙げ、研究所は国際的に高い評価を受けてきました。特に、構造生物学の分野ではわが国で初めて、X 線結晶構造解析、NMR（核磁気共鳴）、電子顕微鏡、計算機科学、および分子生物学を基礎とした研究を展開し、わが国における牽引車となりました。この研究所の出身者は本学を含めて多くの大学、研究機関で活躍しています。

しかしながら、諸般の事情により、生物分子工学研究所は昨年 9 月に研究活動を中止し、本年 3 月をもって廃止されました。このような状況の中で、生物分子工学研究所理事会から本施設の有効活用のために、昨年 10 月 25 日に本施設を大阪大学に寄付したいとの申し入れがありました。さまざまな形で、創立以来この研究所と協力関係にあった本学は、ここを拠点として展開されてきた研究の伝統と学問的蓄積を生かしていくことが重要であると考え、本施設の寄付を受け入れることを決定しました。そして、本施設は大阪大学バイオ関連多目的研究施設として再出発することになりました。



大阪大学バイオ関連多目的研究施設（OLABB）外観

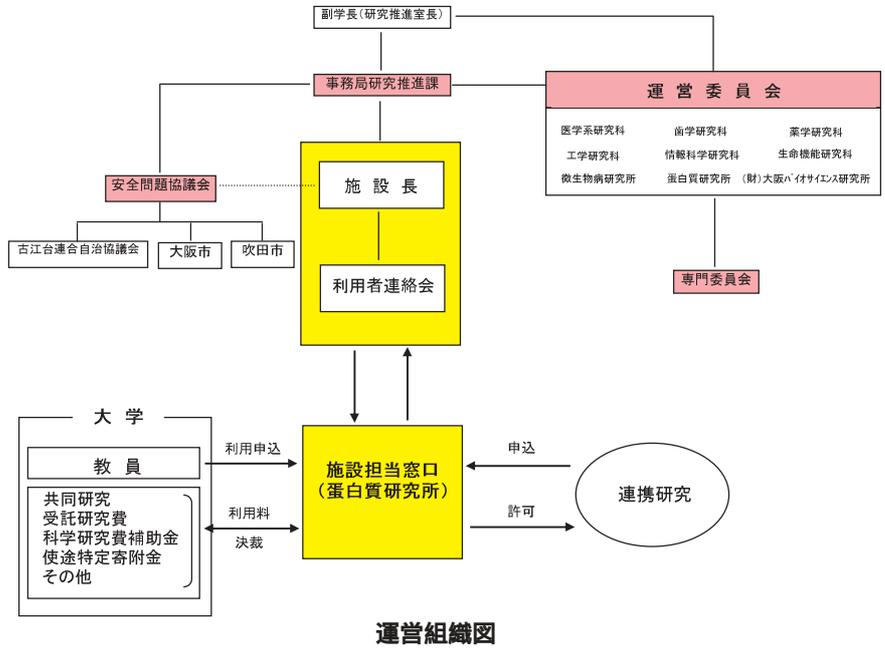
施設の概要

本研究施設は、3 階建てで 7,340 m²の延べ面積を持ち、本学の吹田キャンパスに近く、大阪バイオサイエンス研究所に隣接しており、地域住民からも暖かく見まもられているという恵まれた環境にあります。本研究施設はこの地の利を生かし、安全性と生命尊重の精神を基本として蛋白質の総合的な研究、その他のバイオ関連研究に意欲的に取り組み、もってバイオ関連分野における先駆的かつ独創的な学術の発展に資することを目指しています。本研究施設はオープンラボ方式をとっています。何らかの形で外部資金を獲得したが、研究スペースがないという研究グループに一定の使用料を払ってもらって、使っていただく。ただし、普通のオープンラボとは異なり、上記のような研究施設の理念に則り、相乗効果の出るような研究課題を中心に、長期的な研究にも取り組めるようにすることを特徴としています。また、大阪大学と外部の研究者とのインターフェイスとしての機能も重視しており、既に、大阪バイオサイエンス研究所の研究グループも本施設を利用して研究活動を進めています。すなわち、本研究施設は大阪大学と地域、産業を結びつけるインターフェイスとなることを目指しています。

研究施設の運営

研究施設の運営は研究推進室長（馬越佑吉理事・副学長）を委員長とし、関係各部署長、大阪バイオサイエンス研究所長を委員とする運営委員会によって行われ、日常的には研究推進室長（副学長）の指名する研究施設長がこれに当たっています（右図参照）。事務的には事務局研究推進・国際部研究推進課が所掌し、日常的な窓口は施設長の属する部局（現在は蛋白質研究所）が担当しています。また、本施設はキャンパス外の居住地区にあるため、地域住民の協力なしには研究を進めることはできません。そこで、住民を代表する吹田市古江台連合自治協議会、吹田市、大阪市（地主）との間で安全協定を締結し、安全問題協議会を開いて、安全な研究活動の進め方について協議を行っています。

大阪大学バイオ関連多目的研究施設
〔Open Laboratories for Advanced Bioscience and Biotechnology (OLABB)〕
運営組織図



運営組織図



宮原総長の挨拶



岸本前総長の講演

創設記念式典挙行

4月以降、利用者の選定、施設の改装等に多くの時間がかかり、10月から各研究グループの研究が軌道に乗り始めました。そこで、11月8日(水)に本研究施設の創設記念行事を挙行了しました。これは記念式典、記念講演会、施設見学会、記念祝賀会から構成され、学内外から約90名の参加者を迎えて盛大に開催されました。

記念式典では施設長の式辞、宮原秀夫総長の挨拶、平田 正旧生物分子工学研究所理事長（寄付者）と早石 修大阪バイオサイエンス研究所理事長の祝辞、馬越佑吉理事・副学長の挨拶がありました。記念講演会では岸本忠三前総長による「抗体医薬による免疫難病への挑戦」について、また森川耿右旧生物分子工学研究所長・大阪大学蛋白質研究所寄附研究部門教授からは「生命科学における蛋白質立体構造解析の現状とその意義」について興味深いお話がありました。見学会の後、記念祝賀会が開催され、鷲田清一理事・副学長の乾杯の発声により始まり、祝賀会では吹田市長（代読）、大阪バイオサイエンス研究所からも本施設創設への祝福の言葉をいただきました。

クローズアップ



また、創設記念行事では、研究施設における研究活動を見学していただき、研究者と参加者との間で活発な質疑がありました。

研究活動

本研究施設では現在 10 研究グループが活発に研究活動に取り組んでいます。

森川耿右研究グループ（大阪大学蛋白質研究所）

X線結晶構造解析を主な手段とし、ガン、糖尿病、循環器病等の生活習慣病をターゲットにして、1) 脂質代謝等、生体のホメオスタシスに関連したタンパク質群の構造生物学的研究、2) 遺伝子発現調節に関与するタンパク質・核酸の構造生物学的研究、3) タンパク質と低分子の相互作用に関する研究が行われています。



結晶構造解析（森川グループ）

木村能章研究グループ（大阪大学蛋白質研究所）

低温電子顕微鏡を主な手段として、1) 膜透過駆動機構に関するタンパク質、2) 細胞質膜の品質維持に関わるタンパク質の単粒子構造解析に取り組んでいます。

白井 剛研究グループ（長浜バイオ大学）

生体超分子複合体のモデリングに必要なバイオインフォマティクスのツールを、実際のX線結晶構造解析、電子顕微鏡解析の中で開発することを目指しています。

阿久津秀雄研究グループ（大阪大学蛋白質研究所）

核磁気共鳴法を主要な手段としつつ、1) 固体 NMR による結晶状態膜タンパク質の構造解析技術の開発、2) タンパク質 NMR データベースを利用した膜タンパク質構造の固体 NMR を用いた迅速解析技術の開発、3) 膜タンパク質複合体の NMR 構造解析技術の開発等に取り組んでいます。



750MHzNMR 装置（阿久津グループ）

月原富武研究グループ（大阪大学蛋白質研究所）

非結晶性のもも含めて、X線と電子線の両者の特徴を生かして、いかなる大きさの生体超分子も原子の分解能で捉えうる方法の開発を目指した研究が行われています。

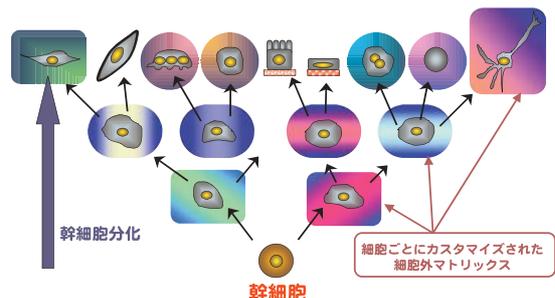
中村春木研究グループ（大阪大学蛋白質研究所）

巨大な膜タンパク質系に対する薬物の結合自由エネルギーを計算してヒット化合物からリード化合物を絞り込むために、膜タンパク質に対する分子シミュレーション計算を実施し、結合自由エネルギーを算出するための研究が行われています。

関口清俊研究グループ（大阪大学蛋白質研究所）

1) 細胞が自らの機能維持や増殖・分化の制御に最適化された細胞外環境を構築するのに使っている細胞外マトリックスの分子構成を解明し、2) それを生体外で人工的に再構築する基盤技術確立するとともに、3) それを利用した ES 細胞の分化誘導制御技術および分化形質安定化技術を開発するための研究を進めています。

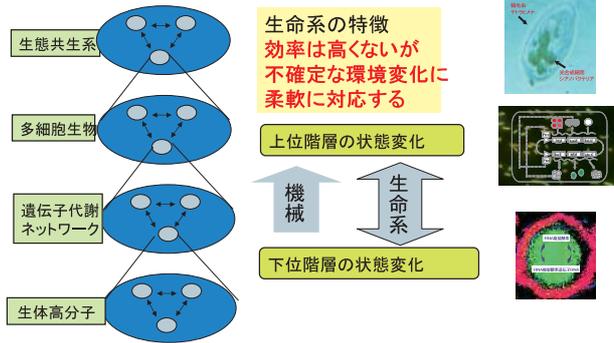
細胞外マトリックスのカスタマイゼーションと幹細胞分化
～細胞はそれぞれに最適化されたテラーメドの細胞外マトリックスを必要としている～



細胞外マトリックスの研究（関口グループ）

四方哲也研究グループ (大阪大学情報科学研究科)

構成的生物学という方法論に立って、1) 試験管内の遺伝子タンパク質ネットワーク系におけるタンパク質分子の相互作用、ダイナミクスやその揺らぎの細胞内ネットワークとの比較、2) 細胞の示す遺伝子発現揺らぎと環境変化の関係の検討、3) 大腸菌を用いた人工進化実験、4) 人工共生系実現に至る過程での遺伝子発現、タンパク質発現の変化の解析、等に取り組んでいます。



構成的生物学に基づく研究 (四方グループ)

花房秀三郎研究グループ (大阪バイオサイエンス研究所)

分子生物学的な方法を用いてガン遺伝子による足場非依存性増殖能獲得のメカニズムを解明し、それを制御する方法の開発を目指した研究に取り組んでいます。

裏出良博研究グループ (大阪バイオサイエンス研究所)

気管支喘息などのアレルギーや炎症に関与する物質として知られているプロスタグランジン D2 を創り出す酵素であるリポカリン型プロスタグランジン D 合成酵素と造血器型プロスタグランジン D 合成酵素の構造と機能について研究を進めています。

本研究施設で行われている研究はタンパク質の構造生物学から、バイオインフォーマティクス、進化学、細胞生物学、基礎医学までの広い分野にわたっており、異分野の交流を通しての新しい分野の誕生も期待できると考えています。また、この施設には超低温電子顕微鏡、750MHz 核磁気共鳴装置のような大型機器も設置されています。本研究施設が本学の「地域に生き世界に伸びる」を実現する新しいステージとして発展することを目指して努力していききたいと思います。

大阪大学バイオ関連多目的研究施設 案内図



利用交通機関

※北大阪急行 千里中央駅から：阪急バス15分(古江台又は藤白台(地下鉄御堂筋線) 経由循環バス「北消防署前」下車)
：タクシー5分
※阪急千里線山田駅から：徒歩10分

※大阪モノレール山田駅から：徒歩8分
※JR東海道線茨木駅から：タクシー15分
※大阪空港(伊丹)から：タクシー20分

あくつ・ひでお

プロフィール

大阪大学たんぱく質研究所助手、横浜国立大学工学部助教授、同教授を経て平成12年より大阪大学たんぱく質研究所教授。平成16年4月より平成18年3月まで大阪大学蛋白質研究所長。平成18年4月より大阪大学バイオ関連多目的研究施設長。

役員室だより

2006.12 Vol.15

本学と大阪外国語大学との統合について、文部科学省の大学設置・学校法人審議会に提出した設置計画が11月30日に正式に認可されました。これにより、来年10月の統合に向け実質的なカウンタダウンが始まることとなります。今後は、統合推進協議会及びその下にある各専門部会において統合に向けての更に具体的な検討とその準備を押し進めてまいります。

さて、本学では毎年多くの人材を社会に送り出し、法人化以降だけで卒業（修了）生の数は1万人を超えました。法人化がもたらした大きな変化は、大学運営の自由度を高めた反面、財政的基盤の確立が求められているのは周知のとおりですが、大学の使命が教育研究活動の推進と優れた人材の育成であることに変わりはありません。本学は、競争的資金の獲得、産学連携の受け入れ及び大学発ベンチャーのいずれにおいてもトップクラスの実績をあげています。しかしながら、ともしれば短いスパンで、しかも目に見える成果が目立たない傾向の中で、目先の成果にとらわれない研究を行い、多才な人材を育成していくことが大学の特性であることを社会に理解していただく努力もしていきたいと思っています。

各室の検討状況

総合計画室

施設マネジメント委員会

施設マネジメント委員会の取り組み状況

施設マネジメント委員会では、スペースマネジメント、クオリティマネジメント、コストマネジメントの基本的な3つの視点に基づき、キャンパスデザイン室等の関連部署との連携のもと、全学的な立場より施設マネジメントに関するさまざまな課題に取り組んでいます。

施設マネジメント委員会の取り組み状況

<p>戦略的な施設整備方策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●キャンパスマスタープランに基づいた施設整備の実施 <ul style="list-style-type: none"> 研究・教育の諸活動にふさわしい環境を整備するリーディングプロジェクト（7件）を中期計画期間中に実施するため予算配分方式を見直し、学内予算を定額配分で確保することを検討中。昨年度は待兼山周辺修築整備が完了し、本部共通棟フロムナード整備1期2件は年次計画で実施中。 ●新たな整備手法に関する検討ワーキングの設置 <ul style="list-style-type: none"> ・長期借入金、PFI等による学生宿舎整備の可能性について検討。 ・寄付による整備：フロンティア研究機構「F1」 ・民間研究施設から無償で研究施設（7,340㎡）を譲渡。 ・地方公共団体との連携により、敷地内ため池改修工事（環境整備含む）を検討中。 	<p>施設の維持管理の適切な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●省エネルギー対策 <ul style="list-style-type: none"> ・毎月部局毎にエネルギー原単位を調査・報告して競争させる等の省エネ促進活動により、吹田地区ではエネルギー原単位が前年度比-2.4%を実現。 ・工学部においては棟単位で省エネ達成率を競い、上位には報奨金の支給や、夏季の一斉休業に取り組み、前年度同月（8月）比で20%の電力量削減を実現。今年度は他の部局も取り組む予定。 ●計画的な施設の維持管理 <ul style="list-style-type: none"> ・宮様工事を計画的に実施するため予算配分方式を見直し、学内予算を定額配分で確保することを検討中。 ・屋外環境整備の効果的な除草回数・時期を設定し部局とタイアップのうえ実施。（草の生い茂る季節にあわせ除草を行い、回数を1回削減） ・部局において適切な維持管理を行うため、法令点検や目視点検項目をわかりやすくチェックリスト方式に整理した「維持保全マニュアル」を作成し、学内に周知。
<p>施設の点検・評価の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●既存施設の有効活用 <ul style="list-style-type: none"> ・施設マネジメント委員と施設部職員が定期的な点検調査を行い、対策が必要な課題（退職教員の不要物品や図書を取り扱い）を抽出し、対応策（運用規定）を検討中。 ・各部局の施設有効活用に対する取組状況の把握を行い、各部局へ「室利用に係る基準」の策定を依頼。 ●「施設情報管理システム」の構築完了 <ul style="list-style-type: none"> ・施設情報を一元管理することで更なる施設の有効活用を目指し、本格運用に向けデータを入力中。 	<p>構内交通安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●駐車場・駐輪場対策、交通安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな入構システムを検討中。 ・交通安全の観点から大学保有の私道を一部車両制限。 ●公共交通の充実化 <ul style="list-style-type: none"> ・学生・職員・病院患者等へのサービスの一環として路線バスの新ルートを設置。
<p>キャンパスデザイン室</p> <ul style="list-style-type: none"> ●キャンパスマスタープラン（CMP）に基づく整備、キャンパス環境等の継続的な検討 <ul style="list-style-type: none"> ・企画立案を行うため、施設マネジメント委員長を室長とし、高度な専門知識をもつ専任の助教授・助手、4名の兼任教員と施設部職員が連携するキャンパスデザイン室（CD室）をH17.4に設置。キャンパスの外部空間に関する事項は計画段階でCD室と協議を行う事項を定め、外部空間のデザインの統一とレベルアップに貢献。 ・学生・教職員と石橋団地周辺の地域住民が、地域社会と大学の在り方を考え、みんなが共有しあえるシンボルゾーンを検討する待兼山デザインワークショップ（DWS）を計4回開催。地域社会との信頼関係を構築して石橋団地のキャンパスデザイン案を作成。また、大学がまろづくりに協力する「建築アドバイザーサークル」の活動を開始。 ・吹田団地に隣接する千里ニュータウンの再開発を考える地元自治会主催のワークショップにスーパーバイザーとして参加。 	<p>その他の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ●適切な施設整備執行への取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度における一般競争入札適用下限金額：2億円 ・平成18年度における総合評価方式の実施予定件数：7件 ・平成18年度における電子入札の実施予定件数：4件

省エネ推進連絡会の開催

施設マネジメント委員会では、省エネ対策として各部局のエネルギー消費量の把握・分析を行うとともに、使用者の意識の啓発に努めています。

今年度からは全学で組織的に取り組むため、各部局においては自主的な省エネ推進組織の設置や省エネ計画に基づいた活動等ご協力いただいておりますが、エネルギー消費量の増大する7月～9月を経て、それらの取り組みによる効果や課題の改善のため、各部局における平成18年度上半期の省エネ取り組み状況の報告や省エネ担当者間の情報交換等を行う省エネ推進連絡会を12月15日に開催しました。

平成19年度年度計画

法人化後2年9ヶ月が経過し、各部局におかれては中期計画に則り、各年度計画の達成を着実に進めていただいているところですが、早くも4年度目の年度計画作成に取り組んでいただく時期となりました。

既に、各部局長あてにお願いしているところですが、平成19年度計画の作成に当たっては、特に以下のご留意の上、ご検討をよろしくお願いいたします。

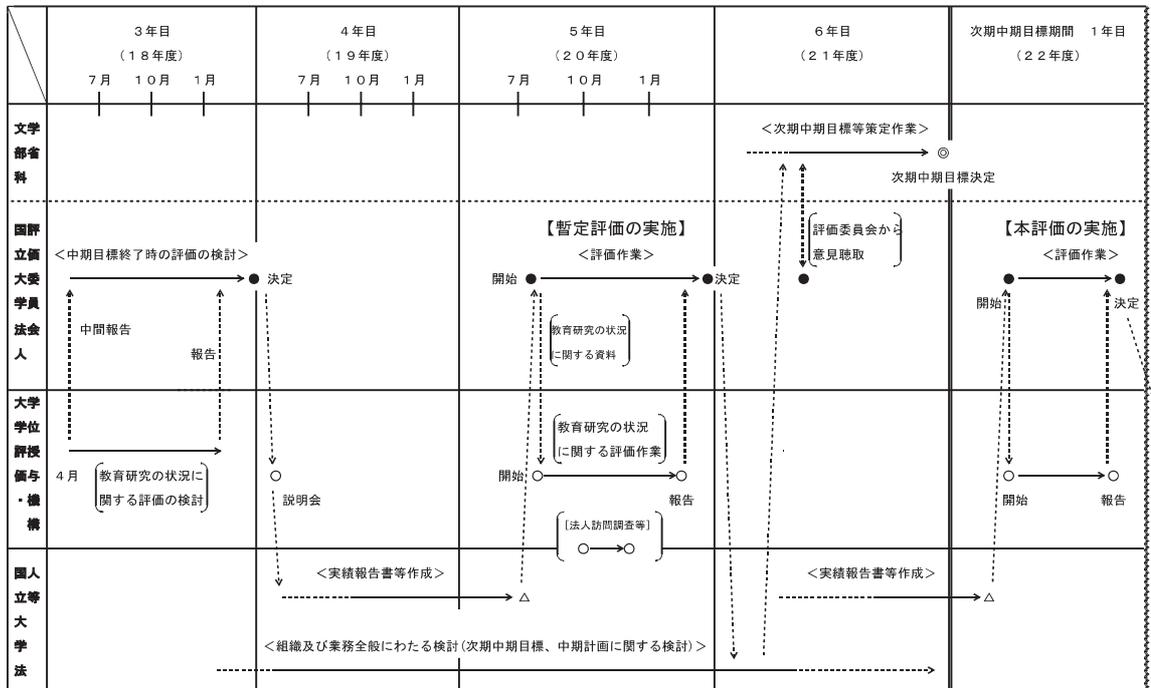
16年度、17年度部局達成状況報告書及び18年度における部局年度計画の達成状況（進捗状況）を踏まえ、19年度において達成可能な計画及び次年度以降に継続する計画について具体的に記載すること。

達成可能な数値目標を、できるだけ記載すること。

各年度の着実な達成の積み重ねにより、中期目標を達成できたと説明ができるように、各年度計画の整合性に注意すること。

平成20年度には暫定評価が実施される予定ですので、平成19年度末までの間における中期目標の達成度が重要になること。

中期目標期間終了時の評価に関するスケジュール（素案）



同窓会連合会の動き

学内での検討組織である同窓会連合会マネジメントワーキング及び各部局同窓会の代表で構成される同窓会連合会幹事会において会員の会費及び募集方法等について検討してきた結果、まもなく入会案内を開始する運びとなりましたので、教職員、学生の皆さん全員が入会されることを期待しています。会費は終身会費として15,000円です（卒業又は修了）時に入会される場合は20%引の12,000円とします。

なお、入会資格は部局同窓会会員又は教職員となっていますので、部局同窓会会員になっておられない方はそちらへの入会もよろしくお願いたします。

（大阪大学同窓会連合会 HP <http://www.osaka-u.ac.jp/jp/dousoukai/top.html>）

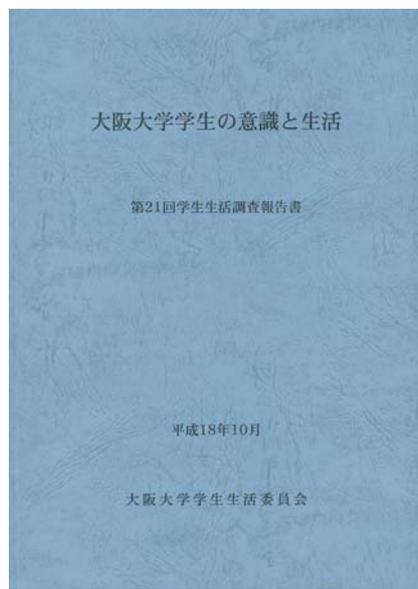
教育・情報室

第21回学生生活調査報告書「大阪大学学生の意識と生活」の刊行

10月に、第21回学生生活調査報告書「大阪大学学生の意識と生活」（大阪大学学生生活委員会）が刊行されました。4年ごとに実施されてきた本学学部学生および大学院学生の生活実態と生活意識の調査も、本年度で第21回を数えます。学生生活調査検討部会を設置し、調査ならびに分析にあられた学生生活委員のみなさまの多大なご尽力に深く感謝申し上げます。

調査内容は、生活状況（生活資金、アルバイト、通学、住居、食生活等）、健康、修学状況、就職、課外活動にかかわるもので、近年の学生がどういうところに生活ならびに修学上の不安を感じているか、授業にどのような感想を抱いているか、キャンパス環境・事務サービス・図書館・学生食堂等に関してどのような不満や要望をもっているか、などをうかがうことができます。また、自由記述欄には、本学における学生生活に対する感想や要望がきわめて具体的に書かれており、学生支援体制の改善にあたって大変に参考になります。教職員各位におかれましては、どうか熟読をお願いいたします。

（調査結果の一部については、「ナウススペシャル」（16～17ページ）に掲載しています。）



TA・RA制度の改善、副専攻制の導入、FD活動の活性化

教育・情報室では、大学全体の「教育改革」の一環として、教育課程委員会と連携しながら、現在までかなりの時間をかけて、TA・RA制度の見直し、副専攻制の導入、FD活動の活性化についての検討をおこなっております。方針もほぼまとまってきており、年明けにはこれら3つの「教育改革」について、教育・情報室より全学に向けて提言をおこなう予定としております。

研究推進室

グローバルCOEプログラムに関するヒアリング

研究推進室では、平成19年度から実施されるグローバルCOEプログラムに対し、公募があれば直ちに対応できる体制を整えるため、どのような提案があるかを調査することとし、各部局に拠点形成計画構想提案を募集しました。

その結果、提出のあった新規提案10件と継続提案7件について、11月から12月にかけてヒアリングを実施しプログラム間の調整等を検討することとしました。

科学教育機器リノベーションセンター設置の検討

総合計画室に設置された設備整備計画検討ワーキングでの検討結果を受け、研究推進室にリユース基盤機器センター（仮称）設置準備ワーキングを設置し、センターの立ち上げについて種々検討を重ねた結果、センター名称は、科学教育機器リノベーションセンターとすること、また、センターには研究教育支援室、リユース促進室、共同利用設備室、先端機器開発室の4つの室を設けること等を検討し、総合計画室に答申しました。

また、本学独自の高いオリジナリティを有する先端機器開発の提案を1月10日締切で公募しています。

産学官連携・知的財産担当者等講習会の実施

知的財産本部の主催により、産学官連携・知的財産担当者等講習会（入門・初級編）を、10月6日から5回にわたり実施しました。この講習会は、産学官連携・知的財産関連業務に必要な知識の修得、実務能力の向上を目的としたもので、近隣大学にも受講を呼びかけた結果、他大学7名を含め29名が受講し、うち27名（検定既合格者等2名を除く）が修了試験として知的財産検定2級を団体受検しました。

また、同本部は、文部科学省大学知的財産本部整備事業の内部人材養成事業に選定され、引き続きレベルアップした講習会を実施するほか、若手研究人材を国際的に通用する知財人材に養成するためのプログラムも行います。



評価・広報室

平成17年度達成状況評価の実施

11月30日に平成17年度部局達成状況評価書を各部局へ送付しました。この達成状況評価書は、平成17年度実績に対するコメント、平成17年度実績と平成18年度計画との整合性、中期計画達成に向けた留意点等を中心に、当室としてのコメントを記載しています。

各部局におかれては、平成18年度計画の推進及び平成19年度計画の策定に向け本評価書を活用いただきますようお願いいたします。

なお、各部局の達成状況評価書は、ホームページ（学内専用）に掲載しております。

平成18年度業務実績報告書の作成

現在、各部局・各室等において平成19年度計画（案）を策定しているところですが、本年度も昨年度同様次のスケジュールで、平成18年度業務実績報告書の作成を予定しています。

- 12月～1月：各部局・各室等において、平成19年度計画（案）を策定
- 2月～4月上旬：各部局・各室等において「平成18年度達成状況評価シート」を作成
- 4月上旬：各部局・各室等から「平成18年度達成状況評価シート」を評価・広報室へ提出

評価・広報室において「年度業務実績報告書（案）」を作成

- 6月：同案を教育研究評議会、経営協議会、役員会で審議
- 6月末：大学の「年度業務実績報告書」を文部科学省へ提出

阪大ニュースレター No.34の発行

阪大ニュースレター No.34 を発行しました。No.34 では、「阪大生の学生生活」を特集し、紹介しています。

また、今号は在学生（学部学生）の保護者の方々にも送付することとしています。



財務・会計室

平成18年度予算補正

法人化後の予算は、学生納付金収入（授業料、入学料、検定料）、附属病院収入などの自己収入額の実績に応じて適宜収入予算を見直し、その増減に対応した支出予算の見直しを行う作業、つまり予算補正案の編成作業を行う必要があります。

このため、年度当初の収入見込額と上半期の収入実績を基礎とした現時点での収入見込額との増減額を支出予算に反映させた平成18年度予算補正案（第一次）を策定しました。

この予算補正案は11月の役員会で了承されています。

平成19年度以降の予算配分

財務・会計室では、平成19年度以降の予算配分について検討を続けており、重点経費及び間接経費については、「重点・間接経費に係る検討ワーキンググループ」を設置し、より効果的な配分を行なうことができるよう、両経費のあり方について集中的に検討を進めています。この他に、電子ジャーナル経費、非常勤講師経費等の配分についても検討を行っており、今後の予算配分に反映させる予定です。

人事労務室

民間企業等からの在籍出向者の受け入れ

すでに、民間企業等の研究者が民間企業等に在籍したまま、本学の教育・研究に従事できるよう、教職員（常勤教員及び非常勤職員の定時教育研究等職員）に雇用する制度を整備しましたが、このたび、研究者のみならず、事務職員や技術職員なども民間企業等に在籍したまま、本学の教育・研究の支援職員等として従事できるように改めました。

【平成18年10月30日改正】

大阪大学の海外拠点等に勤務する者等に係る就業規則等の改正・制定

大阪大学の海外拠点等（国際交流推進本部等）に勤務を命じられ又は配置された教職員の給与及び勤務時間等に関する事項については、国内の規則等のみでは対応できないため、同人の給与等の条件、現地の法律及び事情等を考慮して、個々の海外拠点ごとに、その実状に即した取扱いとすることを規定できるように就業規則等の改正・制定を行いました。（国際交流推進本部の項を参照）

【平成18年11月1日施行】

改正高年齢者雇用安定法への対応に係る就業規則等の制定・改正

改正高年齢者雇用安定法により、段階的に65歳までの雇用機会を提供することが義務化され、その方法として、平成18年度末定年退職者の対象者から継続雇用制度（再雇用制度）を導入することとしました。

このため、その具体的な内容として、就業規則等の関係規程を制定・改正しました。

また、これに併せて、任期付職員（非常勤職員を含む。）についても、就業規則等の関係規程を整備しました。

【平成18年10月30日施行他】

国際交流推進本部

大阪大学教職員海外拠点等勤務規程の制定

大阪大学では、サンフランシスコ教育研究センター、グローニンゲン教育研究センター及びバンコク教育研究センターを設置し、教職員を派遣しています。これまで、こうした教職員の勤務規程が明確に定められていなかったもので、このたび、勤務規程を制定しました。なお、この規程は上記の教育研究センターだけでなく、大阪大学の業務を遂行するために設けられる各部局等の海外拠点にも適用されます。10月24日の部局長会議で承認され、11月1日から施行されています。

所在国によって労働法規・条件等が異なっていますので、勤務規程の成案を得るまでには相当の苦勞がありました。今回、海外拠点を設置している多くの大学に先駆けて規程を制定したものであります。今後、本学の規程が一つの標準モデルになっていくものと思われれます。

英語による授業の提供

これまで、いくつかの学部・研究科において英語による授業が行われてきています。こうした流れを受けて、このたび、英語による授業に対する国際交流推進本部の考え方をまとめました。英語による授業は、本学の国際戦略にとって重要であると考えます。ただし、本学課程修了後、日本社会で活躍する人材の育成という観点から留学生に対する日本語教育は従来どおり重視されなければならないし、外国語を母語とする教員による授業が望ましい場合もあり、そうした場合の制約条件も考えなければなりません。したがって、明確な目的意識と戦略の下に対象学生のニーズに合わせた英語授業を推進することが大事です。

そうした条件を勘案しつつ、以下のような英語による授業を推進すべきであると考えます。

- (1) 学部における短期留学生の受け入れのための授業
- (2) より優秀な留学生をリクルートするための大学院における授業
- (3) 本学一般学生の国際的コミュニケーション能力を高めるための授業

こうした国際交流推進本部の考え方は、部局長会議において資料を配布し説明いたしました。本学ホームページにも掲載してあります。(http://www.osaka-u.ac.jp/jp/gakunai/international/e_jugyou.pdf)

国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラムの採択

これまで、外国人留学生を対象にした英語による授業に対して、文部科学省による国費外国人留学生優先配置の特別枠がありましたが、制度の改正があり、より競争的な特別枠が設定されることになりました。来年度の特別枠は、全国で61プログラムが採択され、本学からは以下の3プログラムが採択されました。

「フロンティアバイオテクノロジー英語特別プログラム」(工学研究科生命先端工学専攻ほか3専攻)

「船舶海洋工学英語特別コース」(工学研究科地球総合工学専攻)

「学生の共同指導を基軸とする先端科学技術アライアンス」(基礎工学研究科物質創成専攻ほか2専攻)

大阪大学の国際交流に関するアドバイザー・ボード

この2年間にわたり、6名の外部の先生方にアドバイザー・ボード委員にご就任いただき、本学の国際交流に関してご意見を承ってきました。そうしたご意見は、「大阪大学における国際交流戦略」にも反映させていただいております。当初お願いした2年間が経過しましたので、今後は問題を絞って、個別にご意見を伺う形にすることにしました。その第1回として、これまでアドバイザー・ボード委員であった西水美恵子氏(前世界銀行副総裁)に、国際社会におけるリーダーシップなどについてのご意見を伺いました。あわせて国際交流推進本部と国際公共政策研究科との共催で「幸福をめざす国造り」というテーマで学生及び教職員に対する講演をお願いしました。約40名の出席者から、熱心な質問があり、予定の時間を大きく超過するほどでした。



講演する西水美恵子氏

国際企画室人事

国際交流推進本部の下に国際企画室が置かれ、本学の国際交流推進のための企画・調査を行っています。このたび、辻 毅一郎総長補佐が国際企画室長に、荻原 哲教授（理学研究科）が兼任教員に就任しました。このほかの教員の陣容は、石川真由美特任助教授、兼任教員・竹中 亨教授（文学研究科）となっています。国際企画室への一層のご協力をお願いします。

海外同窓生向けGCN-WWの開設

大阪大学在籍の留学生・外国人研究者を主な対象とするオンライン・コミュニティサイト GCN Osaka (http://www.gcn-osaka.jp/) では、このたび海外にいる同窓生向けの情報を集めたページ「GCN Worldwide」を追加しました (http://www.gcn-osaka.jp/gcn-ww/)。「阪大生は今」と題した同窓生からの現況報告、海外拠点からのレポートのほか、同窓生にとって有益な情報も掲載しております。また、メンバーとして登録している同窓生や阪大教職員、日本人学生を検索し、メッセージを配信できる機能もあります。これを利用して、世界中で活躍している阪大同窓生や阪大関係者の間で様々なネットワークを築くことができます。皆さんも是非本サイトにご登録下さい。



GCN Osaka のトップページ

上海交通大学とのセミナー

11月20日、上海交通大学から謝学長をはじめ17名の一行を迎え、第11回大阪大学 - 上海交通大学学术交流セミナーを開きました。これは1995年から毎年交互に両大学で行われているもので、今年は本学で行われました。（詳しくは本誌35ページ）なお、先月行われたグローニンゲン大学との学术交流については前号で概略報告しましたが、別途報告書を作成する予定です。

「あなたの意見が、阪大を変える」

- 大阪大学学生の意識と生活 -

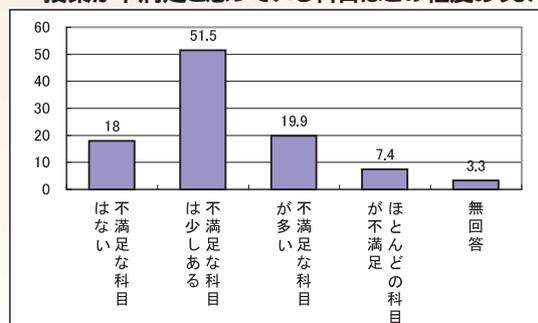
学生生活委員会

学生生活委員会では、平成17年11月から12月にかけて第21回大阪大学学生生活調査を実施しました。

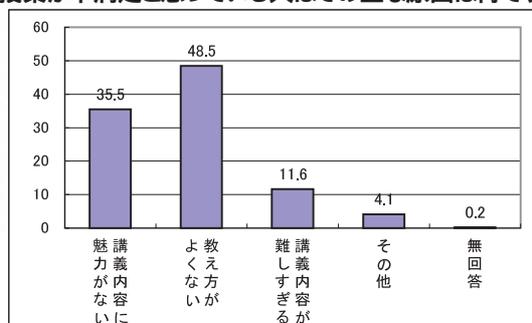
この学生生活調査は、大阪大学における勉学・研究環境を充実させるための基礎資料として、学部学生及び大学院学生の経済状況、生活環境、健康状態、修学状況、課外活動等を中心に、学生生活の実態や意識を把握するために実施したものです。今回で21回を数え、ほぼ4年ごとに実施しています。このほど、調査結果を「大阪大学学生の意識と生活」としてまとめ、公表しました。ここでは、その事項の一部について紹介します。

授業について（学部学生のみ）

授業が不満足と思っている科目はどの程度ありますか？



授業が不満足と思っている人はその主な原因は何ですか？

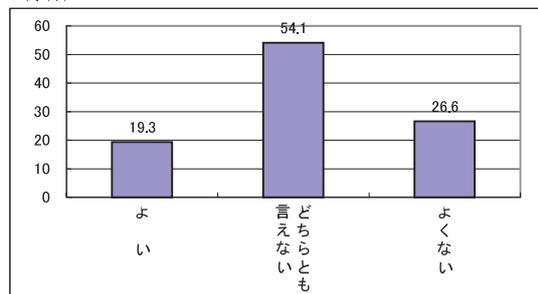


学生はおおむね満足しているものと一応の評価をすることができる。アンケート回答数が十分ではないという前提であるが、すべての科目に満足を示す学生が増えると同時に、不満足な科目が多いとかほとんどが不満足とする割合が増えた。成績の良い学生は満足度が高く、そうでない場合には、ストレスを強め、不満足の回答を示すとの仮説を踏まえ、学力格差が広がっていると推測することもできる。適正な授業評価の在り方を模索する中で、多様な学生に向け、今後とも必要かつ十分な講義内容と講義手法にも留意した努力がいつそう求められている。その原因としては、前回調査と比べて、「講義内容に魅力がない」と「教え方がよくない」の数値が増加している。直ちに教員の個人責任と結びつけることは容易であるが、むしろ背後にある、研究教育処遇環境の総体を根本から見直し、建設的な改善方向を各部署で真剣に検討すべきであろう。

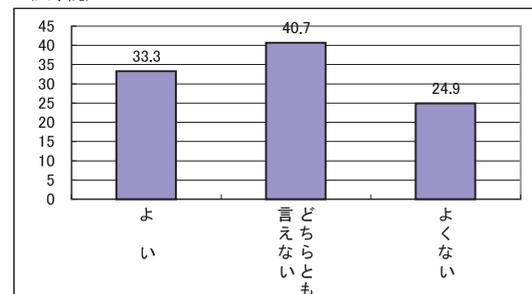
事務の窓口サービスについて

学生に対する事務の窓口サービス（対応や学生への通知等）はどうか？

(学部)



(大学院)



学部学生、大学院学生ともに「よい」が増加し、「よくない」が減少の傾向にある。窓口サービスに対する印象は、少しずつではあるが改善しているのだろう。

事務の窓口サービスについて改善すべき点はどのようなところですか？

(学部)

	接客態度の応	の休憩開放時間	の事務迅速処理	その他	無回答
全体	31.4	41.7	14.2	5.1	7.7

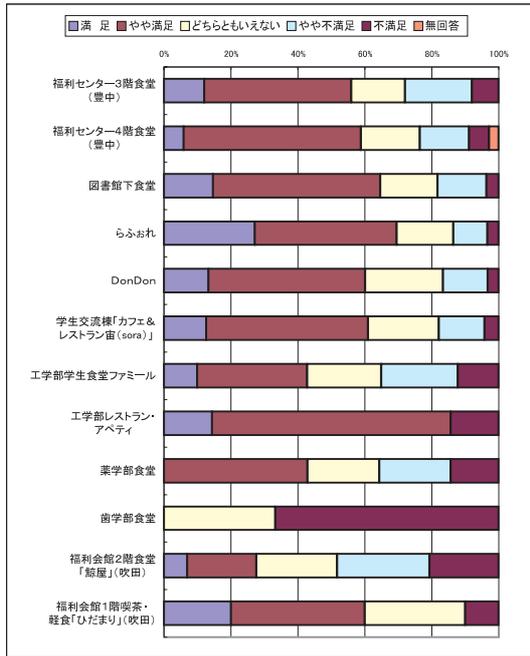
(大学院)

	接客態度の応	の休憩開放時間	の事務迅速処理	その他	無回答
全体	29.6	31.1	20.2	9.1	9.9

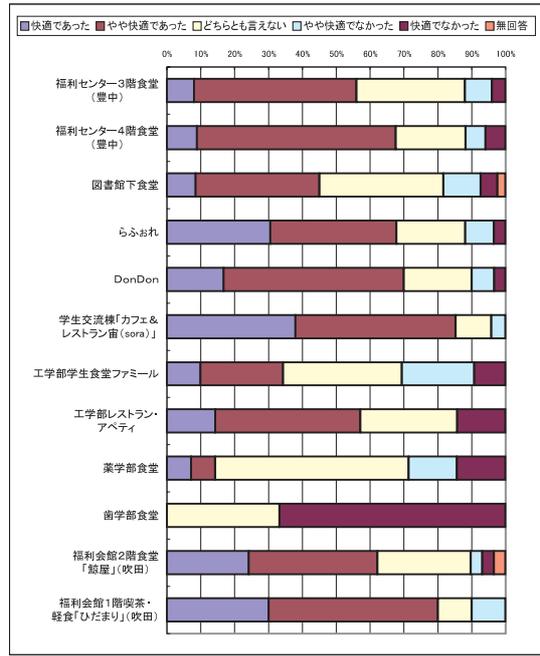
休憩時間中の窓口の開放を求める声は前回からさらに高まっている。授業が滞っている学生も多いことから、昼休みの時間をシフトするなどの工夫も考慮されるべきかもしれない。

食堂・売店について

食堂の食事内容に満足していますか？



食堂は快適でしたか？



今回の調査から調査対象に加わった、豊中地区の「宙」についての内容の評価をみてみると、やや満足以上が60%以上となっており一定の評価を得ていることがわかる。

宙は快適度に関しても好評を博しているといえるだろう。一方、図書館下食堂の快適度は今回も微増しているが、依然として問題のあるレベルといえるのではないだろうか。

売店の品揃えはどうか？

	満足	やや満足	えとどなもちらい言	満足	不満足
全体	12.9	40.8	21.9	21.1	3.3
男	14.9	40.9	22.3	19.3	2.5
女	7.9	40.7	20.9	25.4	5.1

	満足	やや満足	えとどなもちらい言	満足	不満足
全体	14.8	32.1	24.4	18.5	8.9
男	15.6	29.2	26.7	16.8	10.5
女	12.2	42.2	16.7	24.4	3.3

どのような品揃えの充実を望みますか？

	書籍	品家電製	貸日用雑	衣類	菓飲弁当類水・類	類ケ各種トチ	等バ自イ転ク車	C D	器O A機	その他	無回答
全体	49.3	3.4	27.3	1.1	62.1	9.0	2.1	16.3	5.4	4.4	2.3
男	49.0	4.1	27.8	1.6	55.6	7.4	2.8	15.9	6.2	4.4	2.8
女	50.3	1.7	26.0	0.0	78.0	13.0	0.6	17.5	3.4	4.5	1.1

	書籍	品家電製	貸日用雑	衣類	菓飲弁当類水・類	類ケ各種トチ	等バ自イ転ク車	C D	器O A機	その他	無回答
全体	53.1	6.7	26.7	2.2	57.5	9.9	1.2	15.1	7.2	4.4	3.5
男	54.3	7.6	23.5	2.5	53.7	9.8	1.3	14.9	7.0	4.8	3.8
女	48.9	3.3	37.8	1.1	71.1	10.0	1.1	15.6	7.8	3.3	2.2

品揃えには、半数くらいの学生がどちらかといえば満足以上であると回答しているが、2割くらいの学生は学部・大学院を問わず不満を持っている。内容については、学部・大学院を問わず、弁当・飲料水・菓子類については6割、書籍については半数以上が品揃えに不満を持っているが目立つ。

【あとがき】

今回の調査は、平成16年度の国立大学法人化が学生の生活・勉学・研究環境にどのような影響を与えているかを知り、今後の学生支援策を実りあるものにしたい、そのための基礎情報として調査・検討を行ってました。学生側からの要望は多岐にわたり、検討に値するものが多い反面、学生自ら環境整備にコミットする提言があまり見られなかったことは残念でもあります。しかし、大変多くの学生から「調査の集計作業の大変さがよくわかるが、頑張ってください」という励ましの言葉をいただき、大変心強く感じました。今後、この調査の結果を学生のキャンパス生活の充実のために役立てていきたいと思ひます。最後に、貴重な時間を割いて協力いただいた院生・学生のみなさん、及び関係各位に心から感謝いたします。(学生生活委員会委員長 大和谷 厚)

「大阪大学学生の意識と生活 - 第21回学生生活調査報告書 -」は、次のアドレスをご覧ください。
<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/campus/information/images/gakuseiseikatsu21.PDF>

情報科学研究科 若手教員FD研修実施

情報科学研究科では、若手教員へのFD研修を実施しました。本研修は、社会人として、また大阪大学における教育研究者としての常識を身につけ、研修参加を通じて人的ネットワークの形成を図ることを目的として、9月11日(月)～15日(金)の5日間(月から木曜日は13:00から17:00まで実施、金曜日は9:00から17:00まで実施)の本格的な研修を、次のとおり実施しました。

- 1日目：大学組織、研究科組織、キャリアプラン
- 2日目：研究資金の重要性と科研費、講義法と模範講義
- 3日目：コンプライアンス、ビジネスマナー
- 4日目：英語プレゼンテーションの方法(講義)
- 5日目午前：英語プレゼンテーションの方法(実習)
- 5日目：科研費応募内容の相互評価

講師には、同研究科の菊野 亨教授、井上克郎教授、今瀬 眞教授、外部から三菱電機株式会社人事部顧問の島田 彌氏、学校法人修道学園監査室長の松井寿貢氏、元ANA スチュワーデス教育・訓練担当の鈴木紀子氏、社団法人日本工業英語協会理事のラリー・ブルーハード氏、鳥取環境大学都倉信樹教授(大阪大学名誉教授)という多彩な方をお招きしました。



受講者のアンケート結果は高い評価であり、大変好評な研修でした。研修内容が役立つというだけでなく、他専攻の教員と交流できたことを良かった点としてあげている教員が多く、研修の目的が達成できたと考えられます。また、来年度の研修テーマについても建設的な意見が多く、今後とも研究科として積極的にFD研究に取り組んでいく予定です。

(大学院情報科学研究科)

阪大先端拠点形成費および21世紀COEプログラムとNIHとの合同会議開催

大阪大学先端拠点形成費HGPI(ヒト疾患グライコミクス/プロテオームイニシアティブ)および大阪大学21世紀COEプログラム“疾患関連糖鎖・タンパク質の統合的機能解析”が、NIH/NIGMS(Consortium for Functional Glycomics)と、米国メリーランド州ベセスダのNIHにお



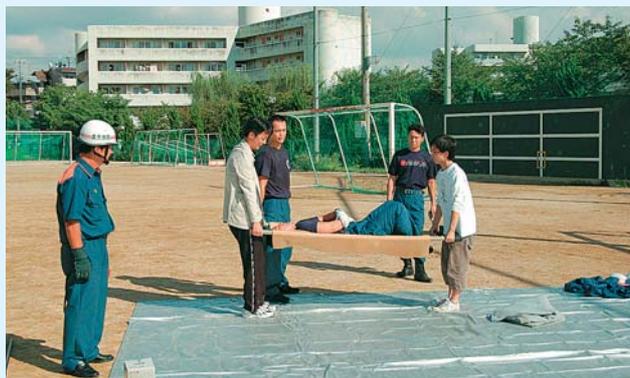
いて糖鎖に関するバイオインフォマティクスとバイオマーカーの国際会議「Frontiers in Glycomics: Bioinformatics and Biomarkers in Disease」を9月11日(月)から13日(水)まで共催しました。この会議のオーガナイザーは、NIHのCFG担当のDr. Marino、アメリカ糖鎖コンソーシアムのDr. Paulson、MITのDr. Sasisekharan、そしてHGPIおよび21世紀COEプログラム拠点リーダーの谷口直之微生物病研究所寄附研究部門教授でした。本会議の目的は、糖鎖に関する日米のバイオインフォマティクスの情報交換と、日本側が提案しました糖鎖を用いたグライコバイオマーカーの開発で、特に癌のバイオマーカーはNIHが数年前から精力的に取り組んでいますがProteomeによる解析がほとんど不調に終わっていることもあり、糖鎖付加に注目した、新たなバイオマーカーの重要性を認識したことによるものです。3日間、大変活発な議論が行われ、今後この領域の益々の発展が期待されます。

(微生物病研究所)

豊中キャンパスで防災訓練実施

豊中キャンパス各部局と安全衛生管理部では、9月1日の「防災の日」にあわせて9月15日(金)大規模地震発生を想定した防災訓練を実施しました。当日は、地区対策本部と各部局との連絡シミュレーション、避難訓練、豊中市消防本部の協力による救出救助訓練や消火訓練を実施し、全体で1,000人以上の参加がありました。

(安全衛生管理部)



救出救助訓練の様子

第3回共通教育フォーラム開催

9月27日(水)に、第3回共通教育フォーラム「学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？」が大学教育実践センターで開催され、約60名の参加者がありました。この企画は、共通教育賞受賞者に、授業の工夫やノウハウ等をお話いただき、意見交流を通じて相互の授業改善に役立てることを目的にしています。

フェーゲル・ベルトリンデ先生(言語文化研究科外国人教師：平成14年前期受賞)は「初修ドイツ語授業における、ダイレクト・コミュニケーションによる充実感について」という演題で、開講日と毎回の進度予定が記載されている「出席表」カードを、出席や成績の管理に利用されていることを話されました。

二人目の下田 正先生(理学研究科教授：平成16年度前期と平成17年度後期に受賞)は、「授業は芝居のようなもの - いかにして学ぶ意欲を引き出すか」と言う演題で、

文系学生を対象にした主題別教育科目「自然と放射能」の授業について話されました。学生の興味を持続させるために、デモ実験や短いビデオ教材が大変効果的であること、また、毎回の学生による授業アンケートをフィードバックすることにより、学生が授業により積極的に参加してくることを話されました。受講学生はこの双方向の授業内容を高く評価しており、参加者一同にとって大変参考になるすばらしい講演でした。

(大学教育実践センター)



国立七大学附属図書館協議会開催

平成18年度国立七大学附属図書館協議会が9月28日(木)に大阪大学附属図書館を当番館として同館本館で開催されました。

同会議では、北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪及び九州の国立七大学附属図書館から館長など32名が参加しました。



協議に先立ち、文部科学省の勝野頼彦研究振興局情報課長から、「学術情報基盤の今後のあり方」、「平成19年度概算要求事

項」、「学術情報基盤実態調査」についての所管事項説明があり、続いて、当日協議会に先立って行われた国立七大学附属図書館館長会議において、基盤的図書館経費の共通経費化等、また事務部課長会議において、電子ジャーナルや人材確保、国立情報学研究所との連携等を巡って活発な議論が行われたことが報告されました。

協議事項においては、国立大学図書館が直面する重要課題である「学術情報基盤に関わる総合的な基本戦略」、「国立大学における図書館組織の位置付け」、「図書館広報のあり方」、「機関リポジトリ」の各テーマについて、熱心な協議が行われ、各大学の取り組みについて意見と情報を交換するとともに、相互の連携を強化する貴重な場となりました。

(附属図書館)

大学院理学研究科・理学部環境美化実施

大学院理学研究科・理学部では、例年実施している学内環境美化の一環として、今年も9月28日(木)に理学研究科周辺の清掃を実施しました。多数の教職員・学生の参加があり、用意した軍手やゴミ袋が瞬く間になくなりました。

当日は、初秋とはいえ残暑の厳しい中、多数の教職員、大学院学生、学部学生及び外国人留学生等総勢約400名が約1時間にわたり、理学研究科・理学部構内を中心に豊中地区正門、大高の森付近の清掃区域で、空き缶、空き瓶、ペットボトル、タバコの吸い殻等のゴミ拾い及び除草作業等を行い、付近一帯が見違えるように綺麗になりました。

この清掃作業は、日頃忘れがちな環境美化に対する意識を再認識するとともに、教職員・学生が快適なキャンパスライフを送れるよう、美化意識の高揚を図ることを目的として行っているものです。

作業終了後はお茶等を飲みながら歓談し、平素は教育研



究の繁多にまかせてお互いに話す機会の少ない教職員、学生のコミュニケーションを深める場としても大いに役立ちました。

(大学院理学研究科・理学部)

薬学部新入生合宿研修実施

薬学部新入生合宿研修が、9月28日(木)、29日(金)の日程で、京都市右京区京北にある京都府立ゼミナールハウスで新入生80名、教職員18名が参加して実施されました。

これは、専門教育の授業が始まる1年次2学期の開始直前に、薬学部の現状と将来に対する認識の再確認とともに、学生と教職員の親睦を深めることを目的として行っているものです。

1日目は、京都市中京区にある島津製作所の三条工場を見学した後に、宿舎であるゼミナールハウスに入りました。

ゼミナールハウスでは、最初のプログラムの全体討議で、



山元 弘学部
長の講話「大
阪大学薬学部
の目指すもの」
に続いて、松
田敏夫教授が
「薬学部履修要
領について」、
岡本禎晃講師



が「病院薬剤部 - その現在と未来 -」、岡田欣晃助手が「阪大薬学部からハーバード大学へ」という題で話されました。講演中、学生は真剣な様子で聞き入り、予定時間を超えて活発な質疑応答が行われました。

夕食は野外でバーベキューをし、京都の奥座敷と形容される素晴らしい自然環境の中で、肉や野菜に舌鼓をうちながら、にぎやかに交流しました。

2日目は、少人数のグループで分科会を行い、学生と教員が学生生活や薬学の未来など自由なテーマで話し合いました。

このように、盛り沢山で少しハードな日程でしたが、なごやかなうちにも実りある研修となりました。

(大学院薬学研究科・薬学部)

平成18年度近畿地区国立大学法人等情報セキュリティ研修実施

平成18年度近畿地区国立大学法人等情報セキュリティ研修が、10月2日(月)にコンベンションセンターMOホールにおいて開催されました。

この研修は、情報化社会における大学職員の情報セキュリティに対する意識及び基礎知識の向上を目的として教職員を対象に約200名(本学約100名)が受講しました。



研修は、学外より講師を迎え情報化社会の問題点や危険性について日常生活で起こりうる例や、実際にあった情報漏えい事件を例にあげて分かりやすく説明していただき、今後行わなければいけないセキュリティ対策や情報を保護するための法律などが紹介されました。

説明終了後は、「ファイルを暗号化するにはどうすればいいのか」、「請負業者によって情報が漏えいした場合、責任はどこが取ることになるのか」、「スパムメールの対応策についてどうすればいいのか」といった具体的な内容の質疑応答が行われました。また当日の受講者からは、「盗難による情報漏洩が一番多いということ」、「(ウイルスのサンプルデモを見て)最近のウイルスは、思った以上に巧妙なこと」、「セキュリティは、技術面も重要だが使う人間の意識(日々の心がけ)が重要だということ」、「基本的なセキュリティ対策について職員への周知に使える項目が多くあったこと」、「最近のウイルスの状況や情報セキュリティの再認識ができて役に立ったこと」など非常に有意義な研修であったとの感想が寄せられました。

(情報推進部情報企画課)

全国国立大学学生指導担当副学長協議会開催

第27回全国国立大学学生指導担当副学長協議会が、10月5日(木)、6日(金)の2日間にわたり、豊中市の千里阪急ホテルにおいて大阪大学を当番校として開催されました。鷲田清一大阪大学理事・副学長の開会の挨拶の後、文部科学省高等教育局学生支援課村田善則課長から、「学生支援に関する諸問題」として、平成19年度概算要求主要事項の概要、奨学金事業の充実、学生指導等について説明があり、その後、引き続き協議が進められました。今回の協議会には、国立大学法人85大学の副学長(理事)が出席し、修学意欲を無くして休学、退学する学生に対する有効な支援策、大学での生活指導やモラルの教育等、現在国立大学が抱えている学生の厚生補導等に関する諸問題について、活発な協議が行われました。また、1日目の協議会終了後に開かれた情報交換会では、和やかな雰囲気の中にも熱心な意見交換及び情報交換が行われました。

(学生部学務課)



外部資金獲得に向けた科学研究費補助金説明会開催

科学研究費補助金の申請件数の拡大及び採択率の向上を図るため、応募予定者および事務担当職員を対象とした科学研究費補助金説明会を、10月6日(金)に開催しました。吹田キャンパス(午前)と豊中キャンパス(午後)の2回に分けて開催した説明会には、若手研究者、事務担当職員など約270名の参加がありました。

吹田キャンパスでは、研究推進担当の馬越佑吉理事・副学長から、科学研究費補助金への積極的な応募を呼びかける挨拶に続き、工学研究科の中谷彰宏教授(文部科学省研究振興局学術調査官)から、科学研究費補助金制度の現状、研究計画調書作成上のポイント等について丁寧な説明が行われました。

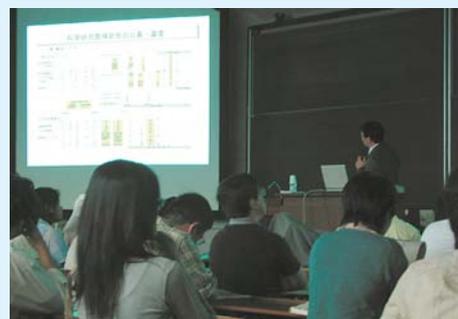
豊中キャンパスでは、馬越副学長の挨拶に続き、理学研究科の山中卓教授(日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員)から、科学研究費補助金制度の概要、審査体制、科研費LaTeX(論文を作成するのと同じ要領で研究計画調書を作成できるソフト。数式や記号、箇条書き等が簡単に作成できる。)の紹介、研究計画調書作成上の

ポイント等について詳細な説明が行われました。

また、説明会では、研究推進・国際部の松木秀彰研究推進課長から、科研費に関する危機管理と題して、科学研究費補助金の不正な使用の例、不正があった場合の措置等について説明があり、中でも不正使用をした場合の措置等については、具体例や罰則を挙げ、研究者や事務担当職員に注意を促しました。

説明会後のアンケートでは、研究計画調書の書き方に関するアドバイスが良かった、不正使用の防止について注意すべき点が具体的に分かったなどの意見が寄せられました。

(研究推進・国際部研究推進課)



説明を行う中谷教授

2006年秋学期留学生受入れプログラム開講式挙行

10月11日(水)コンベンションセンターMOホールにおいて「2006年秋学期留学生受入れプログラム開講式:The Opening Ceremony of the Education Programs for International Students for the Fall Semester of 2006」と題する開講式が挙行されました。従来、別々に開催していた各種留学生受入れプログラムの開講式を合同により挙行したもので、今回は第11期OUSSEPプログラム(大阪大学短期留学特別プログラム)、大学間交流協定に基づき各局に直接配置される短期留学一般プログラム、第25期日本語研修コース、第7期KOSMOSプログラム(日韓共同理工系学部留学生予備教育プログラム)及び第1期日本語・

日本文化研修プログラムに新たに参加する合わせて約100名の留学生が出席しました。

式は、各教育プログラムに携わる授業担当教員をはじめ、留学生の受入れ指導教員、各局の留学生相談室のスタッフ等の学内関係者、留学生の日常生活面でのお世話をいただくホストファミリープログラムの地域にお住まいの学外関係者の方々約150名の出席のもと、留学生センター近藤佐知彦助教授が司会・進行を務めました。来賓の紹介、橋本日出男理事(国際交流推進本部長)の祝辞、各プログラムコーディネーターによる留学生ひとりずつの紹介とともに、各プログラムの代表者(留学生)のこれから始まる留学生活に向けた意気込みなどが披露された後、最後に、古城紀雄留学生センター長からの挨拶がありました。

式終了後は、福利厚生棟大会議室に移動し、高杉英一大学教育実践センター長の乾杯・発声によりウエルカムパーティーが行われ、留学生は出席者と終始和やかな雰囲気でお話をしました。

今後、留学生は授業開始前後にアレンジされた留学生センター並びに学生交流推進課によるオリエンテーションプログラム、附属図書館及びサイバーメディアセンターの施設利用に関する説明会など多忙な当初スケジュールをこなしながら、留学生活がスタートすることになります。

(研究推進・国際部学生交流推進課)



古城留学生センター長の挨拶

第2回大阪大学睡眠学談話会開催

10月11日(水)に第2回大阪大学睡眠学談話会が開催されました。この談話会は本年医学部附属病院に設置した睡眠医療センターを核に、基礎医学・社会医学も含む学際的な睡眠学研究拠点形成構想で発足し、第1回は大阪バイオサイエンス研究所理事長の早石 修先生に「睡眠の謎に迫る - わが睡眠医学研究」を講演いただきました。今回は、世界でも屈指の総合的睡眠医学のセンターである米国スタンフォード大学睡眠センターの西野精治先生(睡眠・サーカディアンリズム研究所所長)に、「ナルコレプシーの病因・



病態生理の解明」を講演いただきました。

西野先生は大阪医大出身で、早石先生の下でプロスタグランディンの中樞作用の研究に従事され、1987年より現在までスタンフォード大学で、昼間の過睡眠と情動と関連した脱力発作が特徴のナルコレプシーを研究され、多くの業績を挙げられました。1999年には犬のナルコレプシーの原因遺伝子がオレキシン2受容体であること、翌年にはヒトのナルコレプシーはオレキシンの産生不全であることを発見され、ナルコレプシーの診断法が確立し、新たな治療法の開発が期待されています。

講演では約100名の聴衆を前に、ナルコレプシーの臨床症状と研究の歴史、原因、診断法、治療法について分かりやすく詳細にお話しいただき、病態の解明が睡眠に留まらず新たな脳機能の解明にも繋がることを示していただきました。さらにスタンフォード大学睡眠センターについて紹介していただき、基礎から臨床までの学際的な組織で最先端の睡眠研究、睡眠医療が行われている現状は、睡眠学研究拠点を旨す上で大変参考になりました。

講演終了後、懇談の機会を持ち、先生のみじめで暖かいお人柄にも触れ、参加者一同貴重な時間を過ごしました。

(大学院医学系研究科・医学部)

附属図書館・NII共催による平成18年度学術情報リテラシー教育担当者研修(関西会場)開催

10月11日(水)から13日(金)の3日間にわたり、平成18年度学術情報リテラシー教育担当者研修(関西会場)が大阪大学附属図書館本館を会場として、同大附属図書館とNII(国立情報学研究所)の共催により開催されました。この研修会の到達目標は近年、図書館における重要な業務と位置付けられている学術情報リテラシー教育(図書館で利用できる学術情報や図書館の施設・設備等について学生や教員などの利用者に分かりやすく説明すること)の担当者が「図書館等において学術情報リテラシー教育を企画・運営し、利用者に対して学術情報を入手する方法についての的確な指導ができるようになる」ことです。

主として西日本各地の大学図書館等から参加した54名の受講者は、青山学院大学の野末俊比古助教らの講義や、大学からの事例報告に聞き入るとともに、今回得た知識と日頃の実践に基づいて行った共同討議では、熱い議論が行われていました。

(附属図書館)



閉講式で挨拶する中村附属図書館長

バンコク教育研究センター開所式及び記念セミナー開催

2006年4月に、サンフランシスコ、グローニンゲンに続く第3の海外拠点としてタイのバンコクに教育研究センターが開設されましたが、10月16日(月)、17日(火)に開設を記念した式典及び記念セミナーがバンコクで行われました。



開所式

式典が行われた16日には、会場であるシャングリラホテルに、本学からは宮原秀夫総長をはじめとして40人余りの関係者が集まり、他にも在タイ日本国大使、交流協定を持つタイの5大学1機関の総長をはじめとした関係者や、在タイの日系機関、日系企業、日本人同窓生、タイ人同窓生など各方面から多数の方々が集まり、参加者総数170名を超える盛大な式典となりました。



記念セミナー

また、17日に同じシャングリラホテルで行われた記念セミナーでは、人間科学、薬学、教育、基礎工学、微生物病、日本語教育など、タイと本学との幅広いジャンルでの結びつきを象徴する、それぞれ異なった分野の6つのセミナーが開かれ、タイ側と日本側の参加者の間で活発な議論が行われました。

この開所式と同時に、新たにタイの3つの大学との間に学术交流協定が締結され、これによって以前より交流協定があったチュラロンコン大学、マヒドン大学、国立保健省に加え、タマサート大学、カセサート大学、キンモンクット工科大学トンプリー校が協定校となり、これでタイ国内において阪大と交流協定を持つ学術機関は5大学1機関となりました。



タマサート大学にて

両日にわたり、宮原総長は、バンコク教育研究センター事務所、JSPSバンコク事務所、日本大使館、チュラロンコン大学、タマサート大学、カセサート大学、キンモンクット工科大学トンプリー校及び日本タイ感染症共同研究センターを訪問し、関係者と意見交換を行いました。

(バンコク教育研究センター)

The 1st International Workshop on the Cyberinfrastructure for Science and Education開催

情報科学研究科は、10月15日(日)~18日(水)の会期で本学コンベンションセンターで開催された国際シンポジウムPRAGMA11において、国際ワークショップを18日に開催しました。本ワークショップは、研究科が推進する文部科学省の大学教育の国際化推進プログラム(戦略的国際連携支援)「融合科学を国際的視野で先導する人材の育成(通称:PRIUS)」(<http://prius.ist.osaka-u.ac.jp/>)の成果報告と、国際的に活躍する研究者と情報科学研究科の大学院生らの議論・交流の場の提供を目的として開催したものです。国際シンポジウムPRAGMA11は、環太平洋諸国の研究機関・大学が参画する研究コミュニティPRAGMAの第11回総会



Peter Arzberger氏

に位置づけられ、4日間の開催で10カ国以上から延べ363名の参加者がありました。

本ワークショップにおいても最終日であったにもかかわらず、国際的な研究・教育プロジェクトに携わる研究者、情報科学研究科の学生、スタッフら72名(うち、海外から10名)が参加し、国際連携のための情報基盤やそのもとの人材育成についての活発な議論が行われました。カリフォルニア大学サンディエゴ校のPeter Arzberger氏からは、同校で実施している学部学生の海外インターンシッププログラム(<http://prime.ucsd.edu/>)のプロジェクトディレクターとして、PRIMEと我々の取り組みの協力や、今後の国際的教育について行うべき課題や挑戦的な課題等について、有益な講演がありました。また、海外インターンシップを経験した本研究科の学生3名がその経験談を披露し、研究能力のアップはもちろん、毎日のコーヒータムでの交流や現地学生との交流で、以前と比べて、より国際的な感覚を身につけていることを実感しました。

また、シンポジウム中には、大阪大学バンコク教育研究センター開所式のためにタイを訪問されていた宮原秀夫総長からの、参加者にむけての挨拶をインターネット上でリアルタイムにハイビジョン品質で配送するという最先端情報技術のチャレンジも行われました。

(大学院情報科学研究科)

平成18年度工学研究科・工学部消防避難訓練

大学院工学研究科・工学部では、10月26日(木)に吹田市北消防署の指導のもと、地球系建物において豊田政男研究科長・学部長をはじめ、300名を超える教職員・学生等



が参加し、消防避難訓練を行いました。

今回の訓練は、本研究科地球系S1棟7階から火災が発生したことを想定し、消防署等への通報、同系消防中隊による初期消火訓練、避難誘導、電気設備・ガス・危険物等の安全措置、重要物品の搬出及び救護活動等の総合的な訓練となりました。

消防避難訓練に続いて、訓練参加者による消火器取扱訓練や同系消防中隊消火班による屋内消火栓を用いた放水訓練を行いました。

訓練終了後、北消防署係官から講評があり、引き続き、地球系消防中隊長である相良和伸教授及び豊田研究科長・学部長から、同署員への謝辞と、参加者に対して今後も火災予防に関して意識の高揚を図るよう挨拶がありました。

(大学院工学研究科・工学部)

大阪大学レーザーエネルギー学研究センター全国共同利用化記念式典開催

レーザーエネルギー学研究センターは、本年4月に学内共同教育研究施設から全国共同利用施設に改組されたことを記念し、10月26日(木)に千里阪急ホテルにおいて、講演会・記念式典・祝賀会を開催しました。

式典に先立ち、記念講演会が開催され、小平桂一総合研究大学院大学長、本島 修核融合科学研究所長、榊 裕之東京大学教授、三間 罔興レーザーエネルギー学研究センター長から講演があり、訪れた学内外の研究者等約190名が



挨拶を代読する鈴木理事・副学長

熱心に耳を傾けました。

引き続き行われた記念式典には、文部科学省から大竹 暁基礎基盤研究課長をはじめ、木村直人量子放射線研究推進室長、板倉周一郎核融合開発室長ならびに手島英雄学術研究機関課課長補佐が御列席され、三間センター長の式辞、宮原秀夫総長(代読:鈴木 直理事・副学長)の挨拶の後、徳永 保文部科学省研究振興局長(代読:大竹課長)、土岐 博国立大学附置研究所・センター長会議役員(大阪大学核物理研究センター長)、飯吉厚夫中部大学総長、観山正見国立天文台長からそれぞれ祝辞が述べられました。

また、記念式典終了後、会場を移して行われた祝賀会は、三間センター長の挨拶、北原和夫国際基督教大学理学科長、高村秀一プラズマ・核融合学会長、金森順次郎(財)国際高等研究所長(元大阪大学総長)の祝辞があり、山中千代衛初代センター長(現レーザー技術総合研究所長)による乾杯の発声で始まりました。祝賀会では、全国共同利用施設の関係者や関連分野の研究者が和やかな雰囲気の中で懇談し、予定時間を超え話の輪が続くなど大いに盛り上がりました。

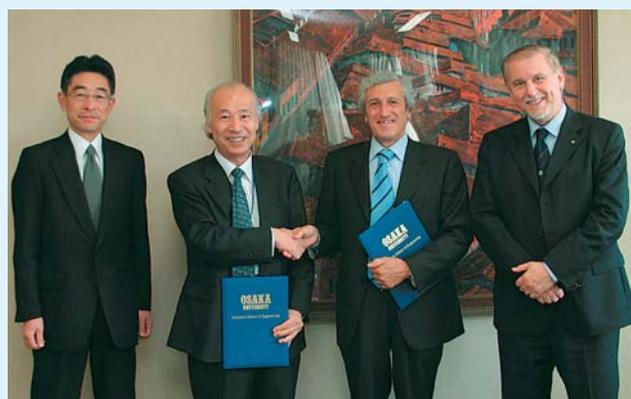
(レーザーエネルギー学研究センター)

大学院工学研究科とイタリア共和国SANT'ANNA 高等大学との部局間学术交流協定締結

イタリア共和国SANT'ANNA 高等大学のPaolo Ancillotti 学長及びGiancarlo Prati教授が、10月30日(月)、大学院工学研究科を訪問し、豊田政男工学研究科長との間で部局間学术交流協定を締結しました。

SANT'ANNA 高等大学はイタリア中西部の『ピサの斜塔』で有名なピサに位置します。ピサは人口9万人のうち、50%以上が大学関係者で占める文字通り学問の都で、SANT'ANNA 高等大学は1343年に設立された国内に4つあるエリート養成のための高等大学の一つです。SANT'ANNA 高等大学は教員数約80名、学生数は学部を含め約400名と小規模ながら光通信・フォトニックネットワーク分野の教育・研究で、2001年にイタリア教育研究省よりCOE (Center of Excellence) に指定されており、同分野におけるイタリア並びに欧州の中心機関としてアクティビティは極めて高く、国際的に高い評価を受けています。

調印式は、大阪大学工学研究科の世話人である電気電子情報工学専攻の北山研一教授が陪席し、工学研究科長室において執り行われました。また、豊田研究科長及びPaolo Ancillotti 学長の挨拶後、今後の交流の活性化等について活



調印後、握手を交わす豊田研究科長(左から2人目)と Paolo Ancillotti 学長(左から3人目)

発な意見交換が行われました。

なお、調印式の後には北山教授の案内で、宮原秀夫総長への表敬訪問や、超高压電子顕微鏡センターの見学、さらに北山研究室におけるセミナーにおいて講演をされるなど積極的に交流を行い、有意義な訪問となりました。

(大学院工学研究科・工学部)

平成18年度大阪大学特志解剖体追悼法会実施

11月1日(水)四天王寺本坊(大阪市天王寺区)において、平成18年度大阪大学特志解剖体追悼法会が執り行われました。

この法会は、系統解剖及び病理解剖のために大阪大学に御献体いただいた方々を追悼するもので、毎年四天王寺で実施しているものです。

当日は好天に恵まれ、過去1年間に献体された方々の御遺族をはじめ医学部及び歯学部解剖学関係各教員並びに本年度解剖実習をした両学部の学生等、関係者約500名の参列者がありました。

法会では、遠山正彌医学部長、高田健治歯学部長及び両学部の学生代表が慰霊の詞を捧げた後、僧侶の読経の中、両学部教員代表、御遺族代表、大阪大学白菊会会長及び両学部学生代表の焼香に続いて参列者の焼香が行われました。次に、歯学部高次脳口腔機能学講座の吉田 篤教授から参列者に対して挨拶があり、厳肅な雰囲気の中に閉会とな

りました。

また、法会終了後、大阪市北区長柄の大学墓地において、昨年度の解剖実習のために献体された方々のうち、大学墓地に埋葬を希望され

ていた方々の納骨法要が営まれ、御遺族及び大学関係者の見守りの中で、17柱の御遺骨が納骨され、滞りなく予定の行事が終了しました。

ここに改めて、御遺族の方々に感謝を申し上げますとともに故人の御冥福を心からお祈りいたします。

(大学院医学系研究科・医学部)



慰霊の詞を捧げる遠山正彌医学部長

第1回タイ - 日本学生科学交流会議(1st TJSE)開催

学生主催による第1回タイ - 日本学生科学交流会議が、11月2日(木)~3日(金)に、基礎工学部シグマホールで行われ、120人を超える多数の参加者を迎えて盛大に開催されました。本会議は、大阪大学や地域の各支援団体の協力のもと、基礎工学研究科未来研究ラボシステムの活動の一環として行われ、大阪大学のタイ留学生・基礎工学部(シグマ)留学生会を中心に、大阪大学の教職員、関連支援団体の招待客、日本各地のタイ留学生(関東からの約30名の他広島・京都・神戸など)日本人学生、他の国の留学生、若い研究者らが交流する試みです。

午前の開会式では主催学生代表 Pakatip Aksharanandana さん(基礎工学研究科物質創成専攻博士後期3年)の開会の辞・趣旨説明に続いて、宮原秀夫総長を始め、タイ大阪

総領事 Supote Isarankura na Ayudhaya 氏の祝辞があり、西田正吾基礎工学研究科長から“タイ・日本等の学生・研究者の領域を越えたネットワーク構築を”との歓迎の挨拶がありました。また、伊藤 正基礎工学研究科教授からは、未来研究ラボ「国際学生ネットワーク」支援により開催されてきました、これまでのインドネシア、ベトナム - 日本などの学生科学交流会議の歴史が紹介されました。さらに、小谷眞一理学研究科長、高田健治歯学研究科長、タイ(チュラロンコン大学、カセサート大学、タマサート大学、SIIT, NSTDA など)からの来賓や、東京大学など国内他大招待講演者らの紹介がありました。引き続き、橋本日出男理事・国際交流委員会委員長から、日本/大阪大学とタイとの教育・人材交流の歴史と展望について基調講演があり、その後、ビデオプレゼンテーションや、シグマ留学生会代表の学生による講演が行われました。

開会式の後、待兼山会館で行われました交流パーティーでは、会議参加者の交流が賑やかに行われました。その後、基礎工学研究科で、三つのセッションに分かれて、参加者の研究発表がありました。

翌日は、タイ文化祭が賑やかに開催され、日本各地のタイ留学生の科学交流、学生活動紹介の後、適塾等の見学ツアーも行われ、2日にわたる会議を成功裡に終了しました。

第2回タイ - 日本学生科学交流会議も同様に大阪大学で行われる予定であり、現在既にその準備が始まっています。

(大学院基礎工学研究科・基礎工学部)



OUCE第3回演奏会開催

OUCE（大阪大学室内楽アンサンブル、Osaka University Chamber Ensemble）の第3回演奏会が、吹田祭関連行事として11月4日（土）、大阪大学コンベンションセンターMOホールで開催されました。昨年4月に設立され、その後半年ごとに大学祭関連行事として演奏会を開かれていますが、今回はその3回目となりました。行楽の秋、3連休の中日であるにもかかわらず、多くの熱心な方に来ていた



第3回演奏会を終えて（前列中央が甲斐教授）

だき、感謝しております。

責任者の甲斐 泰教授（工学研究科）のコメント

「アンケートには色々貴重なご意見をいただき、また去年の演奏会よりレベルが上がったという評価も複数の方からいただきました。着々とメンバーも増え、レパートリーの幅も広がってきておりますので、これからも数々の名曲をお届けできるよう、大学祭関連イベントの演奏会を中心に活動していきたいと考えております。お礼とともに今後もご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。次回は、コンベンションセンターMOホールにおきまして、来年4月29日（日）午後2時開演を予定しておりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。この演奏会を開くに当たり、事務局総務課と評価・広報課及び大阪大学後援会には一方ならぬ便宜をはかっていただきました。厚く御礼申し上げます」

演奏会の様子はホームページ（<http://www.mls.eng.osaka-u.ac.jp/ensemble/>）をご覧ください。

国際大学交流セミナー開催

基礎工学研究科では、（独）日本学生支援機構と共催で、10月28日（土）から11月5日（日）までの9日間、学術交流協定を締結しているベトナム科学技術アカデミー物質科学研究所とベトナム国立大学ハノイ校から学生15名、引率教員5名を招へいし、「持続可能社会を志向する先端科学



技術に関する日越学生交流セミナー」を開催しました。

今回のセミナーは、基礎工学研究科の教授による持続可能性社会を志向する先端科学技術に関する講義を受け、ベトナム及び日本人学生あわせて31名が毎日その講義内容について、班別討論を行い理解を深め合いながら、その内容をまとめて口頭発表するとともに、セミナー最終日の第3回日越学生科学交流会議（神戸大学）でもポスター発表することが主な活動内容でありました。テーマに対するアプローチ、討論方法、ネットワーク創成など、参加者のスキル向上に多くの収穫がありました。また、日本文化に親しむため、ベトナム人学生は近隣の留学生支援者宅で1泊のホームステイをしたり、大阪市内見学に行ったりして交流を深めました。

（大学院基礎工学研究科・基礎工学部）

サンパウロ大学一行来訪

11月6日(月)、外務省の招聘により Suely Vilel サンパウロ大学学長他2名が橋本日出男理事・国際交流推進本部長を表敬訪問し、2008年に行われるブラジル日本人移住100周年記念事業などについて懇談しました。懇談後、医学系研究科・附属病院を訪問し、遠山正彌研究科長、荻原俊男附属病院長、福澤正洋副研究科長、仲野 徹副研究科長、宮坂昌之医学科国際交流委員会委員長との意見交換後、未来医療センターで手術支援テクノロジーなどの最先端技術の視察を行いました。

(研究推進・国際部国際交流課)



左から de Andrade 国際交流委員会会長、橋本理事、Vilel 学長、Ferreira 学長補佐

産学官連携・知的財産担当者等講習会実施

知的財産本部では、10月6日(金)から11月6日(月)まで産学官連携・知的財産担当者等講習会(入門・初級編)を実施しました。この講習会は、産学官連携・知的財産関連業務を担当する教職員等に必要とされる知識の修得、実務能力の向上を目的としたものです。平成16年度から実施してきた学内講習会を再編・拡充し、近隣の国公立大学にも受講を呼びかけた結果、他大学7名を含め29名が受講しました。



講義中の福永正也弁理士

講習会では、産学官連携の制度と意義、知的財産入門、契約の基礎知識、共同研究マネジメント等の講義と並行して、知的財産検定2級(実施:知的財産教育協会、後援:日本弁理士会)対策の講義、演習、修了試験が行われました。

検定対策では、北摂国際特許事務所代表の福永正也弁理士を講師に迎え、2日間にわたり、産業財産権四法(特許法、実用新案法、意匠法、商標法)、著作権法、不正競争防止法について、小テストを挟みながら講義が行われました。

その後、検定に即した形式の演習(模試)を受けた後、最終日となる11月6日には、27名(検定既合格者等2名を除く)が修了試験として知的財産検定2級を団体受検しました。

今後、同本部では、文部科学省大学知的財産本部整備事業の内部人材養成事業に選定されたことを受け、引き続き、知的財産法、契約実務、英文契約書、プレゼンテーション等をテーマとした講習会を実施するほか、若手研究人材を国際的に通用する知財人材に養成するためのプログラムも行う予定です。

(知的財産本部)

公開講座フェスタ2006開催

適塾記念会並びに懐徳堂記念会が参画する HSN(阪神奈大学生涯学習)ネットと大阪府立文化情報センターとの共催で行う市民向け生涯学習事業「公開講座フェスタ」が、11月6日(月)から25日(土)の期間にわたり、同センターのさいかくホールで開催されました。

今年度は「関西再発見～未来への飛翔～」を総合テーマに、適塾記念会から、11月6日(月)に中尾敏充大学院法学

研究科教授が「近代の大阪 - 専門家主長の誕生 - 」と題し講演を行いました。

当日は、多数の受講者が参加し、最後まで熱心に聴講するとともに、終了後も大変活発な質疑応答があり、大盛況の講座となりました。

(総務部総務課)

第9回適塾研究会開催

第9回適塾研究会が、8月1日(火)、9月5日(火)、10月3日(火)、11月7日(火)に、大阪大学中之島センターにおいて開講されました。

この研究会は、本学が適塾記念会と共催で、適塾顕彰事業の一環として毎年開催しているもので、今回は、「適塾門下生についての調査と情報」を共通テーマに、同会理事の芝 哲夫名誉教授及び米田該典同会幹事のコーディネイトのもと、同会会員が調査・研究の成果である、「名塩の適塾生」、「三重・京都の適塾生」、「岡山の適塾生」及び「加賀と播州の適塾生」と題した発表会をそれぞれ行いました。

今回の受講生は33名で、受講者は最後まで熱心に聴講し、最終回終了後には懇親会を催すなど、好評のうちに終了しました。

(総務部総務課)



発表者と芝名誉教授(左)

吹田地区で「武道教室～模擬日本刀を使った動き～」開催

大学教育実践センター・運動健康支援部門では11月2日(木)、6日(月)、7日(火)の3日間、12時15分～13時の時間帯に、教職員および学生を対象とした「武道教室～模擬日本刀を使った動き～」(指導：坂東隆男大学教育実践センター助教授)を、吹田地区体育館において開催しました。



本教室は、平成15年度から「剣道教室」として開催されてきた講習会ですが、その中でも特に人気が高かった、模擬日本刀を使った動きに内容を絞り、実施したものです。今回は、35名の申込があり、そのうち25名の教職員、学生の方々が参加されました。

内容は、日本刀の取り扱い方、抜き方、鞘(さや)への納め方、構え方、素振り、そして、全日本剣道連盟居合(いあい)の動きを題材としました。申し込まれた方が、開催期間中のご都合のよい日に参加していただけるよう、原則的に毎日同じ内容を実施しました。参加者の方々は、静かで落ち着いた雰囲気の中で、姿勢、呼吸に気をつけながら、真剣に動きを練習していました。

危険のない安全な模擬日本刀を使用し、すばやい動きや筋力・持久力が必要としないため、年齢・性別・体力の有無に関係なく気軽に実施でき、参加者の方々には大変好評でした。来年度以降も継続して開催の予定です。

(大学教育実践センター)

平成18年度基礎工学研究科英語特別コース入学式挙行

英語による科目履修及び研究指導により修士号及び博士号を取得できる基礎工学研究科英語特別コース博士前期及び後期課程の入学式が、11月8日(水)に基礎工学研究科A棟2階会議室において挙行されました。

式では、関係者25名が出席し、英語特別プログラムWG主査である田谷正仁副研究科長の司会のもと、西田正吾研究科長から式辞があり、平成18年4月及び10月に入学した9名(1名は欠席)によるスピーチを行いました。最後に、出席した関係者とともに記念写真を撮り、終了しました。

(大学院基礎工学研究科・基礎工学部)



第25回千石会総会開催

11月10日(金)大阪大学コンベンションセンターにおいて、第25回千石会総会が開催されました。

議事に先立ち、阪本重男副会長による開会の挨拶、物故



就任の挨拶をする辻新会長

者への黙禱が行われました。

その後、根来 勲前会長から10月の役員会で辻 仁氏へ会長の交代があったことの報告があり、辻新会長から就任の挨拶がありました。

引き続き議事に入り、新規会員、現会員数等の報告があった後、平成17年度会計報告及び役員交代について協議が行われ、最後に、北見耕一理事・事務局長から本学の近況について報告があり、閉会となりました。

総会終了後、福利厚生棟2階大会議室において、賛助会員(現職)も参加した懇親会がにぎやかに行われました。

「千石会」とは、大阪大学に事務職員等として在職した者が、終生互いに交流し、親睦を重ねることを目的として、昭和57年5月に結成されたものです。

(総務部総務課)

京都府立嵯峨野高等学校の生徒を対象とした特別授業実施

大学院言語文化研究科では、10月21日(土)、28日(土)及び11月11日(土)に京都府立嵯峨野高等学校京都こすもす科国際文化系統1、2年生の生徒約70名を対象に特別講義を実施しました。これは高大連携の一環として実施したもので、今回で4回目となります。

同高等学校は、平成14年度から3年間、文部科学省から「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHi)」の指定を受け、英語教育を重視したカリキュラムの開発、実践的コミュニケーション能力の育成、広範な異文化理解の育成及び大学や海外姉妹校との効果的な連携について、研究・実践を行っています。

講義題目は、第1回「『UFO』という都市伝説と現代アメリカ社会」(木原善彦助教授)、第2回「『大学力』を高める外国語教育」(小口一郎助教授)、第3回「『日本語』と『国語』のちがいについて」(山下仁助教授)で、分かり易い内容となるように話が進められました。

毎回2時間の講義でしたが、生徒達は普段高校では受講することのできない講義とあって、メモをとりながら熱心



に聴き入っていました。

高校からは、「毎回興味深い内容で、生徒の知的好奇心を高め、発展的な学習につなげるとともに、進路実現への意欲の向上を図ることができる」との感想が寄せられました。

(大学院言語文化研究科)

附属図書館で国際シンポジウム開催

附属図書館では、本館(豊中キャンパス)6階図書館ホールにおいて、11月15日(水)に「求められる図書館サービスとスタッフ・ディベロップメント」(Library Services to be expected and Staff Development)と題する国際シンポジウムを開催しました。この国際シンポジウムは、国立情報学研究所が平成18年度の教育研修事業の一環として主催したものです。

西日本会場(11/14)は広島大学図書館、関西会場(11/15)は大阪大学附属図書館、東日本会場(11/17)は東北大学



パネルディスカッション

附属図書館が共催校として会場を提供し、同一内容で上記シンポジウムを行いました。

シンポジウムはスウェーデンのウプサラ大学から Sue Dodd さん、オーストラリアのフリンダース大学から Liz Walkley Hall さん、ニュージーランドのオークランド大学から Chie Emslie さんという現役の図書館司書を招き、図書館職員に対する各大学でのスタッフ・ディベロップメントに関する3人の講演とパネルディスカッションが行われました。

関西会場となった本学附属図書館には121名の参加があり、普段聞く機会のほとんどないスウェーデン、オーストラリア、ニュージーランドの各大学図書館における人材育成の話に熱心に聞き入っていました。なお、今回の国際シンポジウムでは事前に講師から発表用原稿を集め、日本語に翻訳した文章とともに冊子を作成して当日参加者に配布するという試みを行いました。英語で行われた講演は通訳なしでしたが、日本語の訳文があったためにわかりやすいと評判がよく、また、図書館員の専門性を高め、人材を育成するために、各国の大学において様々な施策が実施されていることに関心が集まっていました。

(附属図書館)

産業科学研究所環境美化清掃実施

産業科学研究所では毎年恒例の所内環境美化清掃を11月15日(水)に実施しました。施設委員会委員長の谷村克



己教授の挨拶に始まり、秋の柔らかい陽射しの中、約2時間、産研敷地内及び周辺一帯の通路、排水溝などの落ち葉を中心にゴミ類の清掃を行いました。参加した200名余りの教職員並びに学生は、一致団結して落ち葉拾いや排水溝の土砂上げ、ゴミの収集作業等を行い、ビニール袋や土嚢袋に収められた大量の落ち葉や土砂等を3台のリヤカーを使って汗水流して必死に運搬しました。清掃が終わった後の所内には、すがすがしい空気が満ち溢れ、参加者一同心から爽やかな気持ちで各研究室、部署等に戻っていきました。

また、安全衛生の観点から研究室周辺の廊下やエレベータ付近等についても、整理整頓を行いました。

(産業科学研究所)

平成18年度近畿地区国立大学法人等会計事務研修実施

平成18年度近畿地区国立大学法人等会計事務研修が、11月14日(火)から17日(金)までの4日間にわたり、本学が当番校として大阪大学コンベンションセンターにおいて行われました。

この研修は、社団法人国立大学協会近畿地区支部及び本学の共催で、会計事務に1年以上の経験を有する近畿地区国立大学法人等の事務職員を対象に、国立大学法人等の財務会計事務に関する必要な知識を習得させるとともに、今後の大学改革等に必要の見識を身につけることにより、職員の資質の向上を図ることを目的として実施され、本学から28名、近畿地区の国立大学、共同利用機関等から58名の合計86名が受講しました。

今回の研修は、「複式簿記を振り返り、国立大学法人会計基準の重要部分を習得し、決算業務や財務分析も学習することにより、国立大学法人等の職員としての資質の向上を図ること」を目標として、膨大な国立大学法人会計基準の論点の中から監査法人により10の論点に絞った「必ず理解しておくべき10の会計処理」のマスターを図ることを主な講義内容としました。講義中は、受講者全員が真剣な眼差しで聞き入り、用意されたテキストに熱心にメモを取る姿が随所に見受けられました。また本学の二瓶文博監事による特別講義「法人化後、大学会計事務職員に何が求



められているか」では、意識改革、求められる職員像、会計業務における「IT内部統制」などについての講演が行われ、「初任者だけでなく、職員全員が考えるべき問題で、常に自己研鑽をしなければ」という声を受講生から聞かれました。

4日間の研修を経て、受講生は所定の研修を無事修了しました。

(財務部財務課)

事務情報化研修「Access」(中級)実施

事務情報化研修「Access」(中級)が、11月15日(水)から17日(金)にかけてコンベンションセンター1階研修室において開催されました。

本研修は、「Access」の基本的操作がわかる方を対象に、業務での「Access」の有効活用と職場でのアドバイザーの育成等を目的として開催されました。

研修では3日間の日程で、「テーブルの目的別作成について」「マスターテーブルについて」「クエリーについて」「クエリーを利用した各種照会処理について」「データ登録処理について」の講義・実習が行われ、11名が所定の課程を修了しました。

受講者からは、少人数で集中できる研修であり、「Access」全体の流れや概要を理解することができ、非常に有意義であったとの感想が寄せられました。

(情報推進部情報企画課)



平成18年度永年勤続者表彰式挙行

平成18年度永年勤続者表彰式が、11月21日(火)銀杏会館3階大会議室において、受表彰者43名のうち37名の出席のもとに挙行されました。

式は、理事及び部局長等が多数臨席する中、宮原秀夫総長から受表彰者一人ひとりに表彰状と記念品を授与された後、ねぎらいの言葉が述べられ、続いて、受表彰者を代表して大学院医学系研究科の中嶋有加里氏が答辞を述べ閉式しました。

引き続き事務局前で記念撮影を行った後、祝賀会が本部福利棟2階で行われました。

祝賀会は、北見耕一理事・事務局長の挨拶で始まり、和やかな歓談のひとときを過ごし盛会裏に散会しました。

今年度表彰された方は、次のとおりです。

藤原 強(事)	徳野 光男(事)
川北 康夫(事)	池本 忠雄(事)
松本 光弘(事)	吉岡 治(事)
林田 洋一(事)	山本 浩司(事)
梶原 孝次(事)	伊豆 紀男(事)
廣田 映二(事)	榊橋 信之(事)
川邊 博之(事)	村上 健治(医)
江川実喜子(文)	牧野 弘之(人)
中嶋有加里(医)	老木 栄治(医)
藤井 智博(医)	松村 健司(歯)
小田 和広(工)	大谷真理子(工)



中田 泰弘(基)	西脇加代美(基)
坂藤 昌子(医病)	市場ゆかり(医病)
伊藤 陽子(医病)	藤埜 浩一(医病)
西 功(医病)	鍵田 正智(医病)
小牧 将浩(医病)	岸本 和久(医病)
牧野真一郎(医病)	岡本 保彦(医病)
竹本 勲(医病)	成尾 和也(医病)
池 美保(歯病)	境谷 久恵(歯病)
盛定 京子(歯病)	松下 寿澄(微)
田井久美子(微)	白井 政行(産)
阿野 真治(核物)	

(総務部人事課)

第11回大阪大学 - 上海交通大学学術交流セミナー開催

11月20日(月)、大学間学術交流協定校である上海交通大学との交流の一環として、謝 縄武学長を始め、材料学部、電子学部、化学学部、法学部および環境学部の教授・助教授等17名を本学に迎え、銀杏会館で「第11回大阪大学 - 上海交通大学学術交流セミナー」が開催されました。

セミナーの開催に先立ち、謝学長が宮原秀夫総長を表敬訪問し、両大学の緊密な継続的交流を確認しました。

このセミナーは、同大学との交流協定締結を機に、1995年以降、毎年交互に両大学で各分野の研究者を招へいして行っているもので、本学が当番校となった本年は「Bridging of Research and Education for Sustainable Development in Asia (アジアの持続的発展に向けた研究・教育の懸け橋)」をテーマとし、材料、ナノ工学、情報及び化学の領域で展開される4つの21世紀COEプログラムの協力を得て実施されました。

セミナーの冒頭、宮原総長、謝学長の挨拶があり、続いて馬越佑吉理事・副学長、謝学長による、それぞれの大学における研究戦略に関する講演が行われた後、午後には「材料・ナノ工学と環境・エネルギー」「情報技術とネットワーク共生環境」及び「化学と自然共生」の3分科会に分か



開会式での宮原総長の挨拶

れ、各分野について議論を深めました。

また、セミナーを学術交流のみならず、産学連携の足掛かりとすべく、今回初めての試みとして産業界の方々もお招きし、講演・分科会を合わせ約200名が参加する盛況ぶりです。両大学の継続的な交流が、学術的にも、経済的にも、より緊密な日中関係の構築につながることを実感されたセミナーでした。

(研究推進・国際部国際交流課)

薬学研究科公開講座「くすりと医療」開催

平成18年度薬学研究科公開講座が、11月11日(土)、25日(土)の2日間薬学研究科特別講義室を会場として開催されました。

本講座は、「くすりと医療」と題して、薬学や医療に関わる人たちの生涯教育の一環として、最新の知見をもとに、薬学の現状と課題について、広く医療に関わる学内外の6



名の講師により、独自の展望を語っていただきました。薬剤師をはじめ、会社員、主婦など幅広い年代層にわたる約40名が受講しました。

開講に当たって、今回の公開講座の座長である土井健史教授の挨拶と開講についての趣旨説明があり、本学薬学研究科の小比賀 聡助教授、辻川和丈助教授、本学医学系研究科の稲垣 忍教授、尾路祐介助教授、福嶋教偉助教授、同志社大学工学部の野口範子教授により講義が行われました。各講義は、核酸医薬、免疫制御や中枢神経の再生、がん医療、移植医療における薬物治療、細胞の防御機構など、医療薬学、医薬品と人との接点に関わるテーマで行われ、最新の知見およびそれらの科学的基盤から医療に至る広範な内容を紹介いただき、受講生は熱心に聞き入っていました。

また、最終日に行ったアンケート調査では、開催日程・場所の設定などに関して一部要望が寄せられましたが、内容的には極めて高く評価され、多くの参加者から今後の本講座開講への強い期待が寄せられました。

(大学院薬学研究科・薬学部)

名誉教授会開催

本年度の名誉教授会が、11月24日(金)リーガロイヤルホテル「光琳の間」において、名誉教授84名及び部局長等32名の出席のもとで開催されました。

会は世話人の鈴木 胖名誉教授の挨拶で始まり、本年春の招待懇談会以降にご逝去された名誉教授の先生方への黙祷が捧げられた後、今年度の文化勲章、文化功労者及び秋の叙勲を受けられた名誉教授の方々が披露され、文化功労者に選ばれた松原謙一名誉教授及び瑞宝重光章を受章された小泉 進名誉教授が挨拶をされました。



松原名誉教授

引き続き、原田 明大学院理学研究科教授から「自然共生と超分子化学」と題する講演が行われ、また、宮原秀夫総長からは本学の経営的



小泉名誉教授



左から、岡田善雄名誉教授、宮原総長、鈴木名誉教授、櫻井 冨名誉教授、岸本忠三前総長

側面や国立大学法人評価委員会による大学評価の結果、本学の国際交流活動及びキャンパスの整備状況、今秋中之島センター内に開所した大阪大学中之島ヘルスケアクラブ、14年ぶりに成し遂げた全国七大学総合体育大会の優勝等、大学の近況が報告されました。

続いて開かれた懇親会では、宮原総長による出席部局長等の紹介、伊藤順吉名誉教授の発声による乾杯の後、お互いの近況報告など旧交を温めながら、終始和やかな雰囲気の中で懇談が行われ、鈴木名誉教授による締めくくりの言葉と万歳三唱により盛会のうちに終了しました。

(総務部総務課)

第4回スポーツ科学セミナー開催

11月25日(土)豊中キャンパス共通教育A棟において、第4回スポーツ科学セミナー(大阪大学体育会主催、大学教育実践センター共催)が開催されました。本セミナーは体育会会長である宮原秀夫総長の挨拶に始まり、生田香明



宮原総長の挨拶

大阪大学招聘教授による「冬季トレーニング」についての講義と、伊藤 章大阪体育大学教授による「ウォーミングアップとクーリングダウン」についての講義と実技指導が行われました。

この催しは、体育会所属クラブの強化を目的としたものです。練習時間や練習場所が制限されている中で、スポーツ推薦のある私立大学や他の国公立大学と競技レベルで渡り合うには、理論的なトレーニングを導入することが必須です。そして各クラブの強化は、大阪大学ブランドの構築や、有力な新入生の確保につながります。その趣旨のもと2年前に、スポーツ科学セミナーが開催され、今年の全国七大学総合体育大会での総合優勝や、各クラブのリーグ昇格など、成果が徐々に現れています。

体育会所属クラブが、有効的な練習方法を取り入れ、一丸となって更なる発展をとげることができるよう、今後も定期的開催の予定です。

(学生部学生支援課)

最先端の物理を高校生にSaturday Afternoon Physics 2006開催

高校生を対象に、第一線の研究者が最先端の物理を分かりやすく講義するとともに、実験やゲームも取り入れ、物理や科学に対する興味を引き出そうとするプロジェクト、「最先端の物理を高校生にSaturday Afternoon Physics 2006」が、本学湯川記念室の主催、理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、大学教育実践センターの共催で、10月21日(土)から11月25日(土)までの6週にわたり、基礎工学部シグマホールで開催されました。

毎土曜日午後3時から6時までの授業は、(1) 基幹講義：



最終日に細谷委員長から修了証書を授与される高校生たち

自然界の様々な世界を訪ねる(2) コーヒーブレイク：展示、交流、Q&A (3) 実践講義：ハイテクにおける物理、ゲーム、クイズの3部で構成され、自然の謎を解き明かす最先端の物理を駆使して宇宙から極微の世界までを探索するとともに、我々の社会にこうした知識と技術がいかにかに生かされ実現されているかなど、未来への展望を含めてわかりやすく解説されました。

毎回、平均約150人が参加し、講義終了後には内外から集まった講師たちに活発な質問を行うなど、「知りたい、学びたい」と思って自主的に参加した高校生の好奇心を満たすものとなりました。

また、工学研究科、核物理研究センター、レーザーエネルギー学センターにおける最新研究設備の見学も行われるなど、参加者にも好評のうちに全プログラムが終了し、最終日には、細谷 裕湯川記念室運営委員会委員長から鷲田清一副学長名の修了証書が授与されました。

詳細はホームページ <http://www.yukawa.phys.sci.osaka-u.ac.jp/SAP/> に掲載されています。6週間にわたって大学が高校生に提供するこのプログラムは、湯川記念室が昨年からはじめた日本初の試みですが、第2回目となる今回も盛況のうちに終了しました。

(湯川記念室)

金融・保険教育研究センター発足記念行事開催

11月27日(月)に法・経講義棟講義室で金融・保険教育研究センター発足記念式典・記念講演会が、文部科学省、連携協力関連組織関係者をはじめとして教職員及び学生約220名が出席して開催されました。

式典では、仁科一彦理事・副学長の式辞に続いて、宮原秀夫総長の挨拶の後、近藤信司文部科学審議官から祝辞が述べられ、引き続き、長井英生センター長からセンターの概要説明が行われました。

また、式典終了後、福井俊彦日本銀行総裁が「新たな時代を迎えた日本経済と金融」という演題で講演を行い、出席者は熱心に聴講していました。講演終了後、質疑応答の時間を設けられ、学生から活発に質問があり、出席者にとって有意義な記念講演となりました。

さらに、会場を移し開催された祝賀会では、米田道生大阪証券取引所代表取締役社長及び宮西正宜関西学院大学理工学部教授(大阪大学名誉教授)から挨拶があり、小谷眞



講演を行う福井総裁

一理学研究科長の発声で乾杯し、祝宴に入りました。また、祝宴において、各連携協力組織の紹介があり、出席者は種々情報交換を行い親交を深めました。

(金融・保険教育研究センター)

キャンパスニュース

平成18年度適塾記念講演会開催

本学が毎年、適塾記念会との共催で行う適塾記念講演会が、11月29日(水)大阪大学中之島センターの佐治敬三メモリアルホールで開催されました。当日は、鷲田清一理事・副学長の挨拶に続き、「古代ギリシア・ローマの笑い、上方の笑い - 喜劇の場合 - 」と題し木村健治大学院言語文化



木村講師

研究科教授が、また「ここまで進んだがん治療」と題し門田守人大学院医学系研究科教授が、それぞれ講演しました。

約80名の受講者は最後まで熱心に聴講し、終了後も活発な質問が出るなど、大変盛況な講演会となりました。

(総務部総務課)



門田講師

平成18年度国大協近畿地区支部専門分野別研修実施

12月1日(金)に「情報公開・個人情報保護」に関する研修がコンベンションセンターMOホールにおいて、実施されました。

この研修は、国大協近畿地区支部と本学の共催で、近畿地区の国立大学法人等の教職員を対象に、教職員に必要とされる知識の習得と能力の向上を図ることを目的として実施され、約200名が受講しました。

今回は、「情報公開・個人情報保護」をテーマに大阪教育大学管理部長(前内閣府情報公開・個人情報保護審査会



中村講師



石川講師

事務局審査専門官)石川博美氏と岡山大学法学部副学部長中村 誠教授を講師に迎え、石川講師からは「情報公開法・個人情報保護法の運用について」、中村講師からは「個人情報保護法と国立大学の対応」の講義が行われました。

講義終了後には活発な質疑応答が行われるなど有意義な研修となりました。

また、1月下旬には「広報」をテーマにした研修を実施する予定です。日程等が決まり次第お知らせします。

(総務部人事課、評価・広報課)

松原謙一名誉教授、山崎正和名誉教授が文化功労者に選ばれる

平成18年度文化功労者が発表され、本学からは次の名誉教授が選ばれました。11月6日(月)にホテルオークラ(東京)で顕彰式が行われました。

松原謙一名誉教授(平成9年退官・細胞生体工学センター)
山崎正和名誉教授(平成7年退官・文学部)

(総務部評価・広報課)

秋の褒章と叙勲

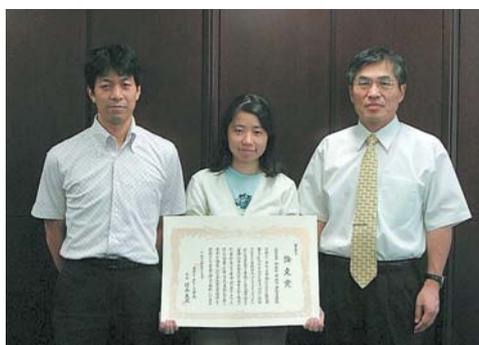
平成18年度の秋の褒章及び叙勲受章者が発表され、本学関係の受章者は次の方々です。

中村敏一	(大学院医学系研究科教授)	紫綬褒章
松澤佑次	(名誉教授)	紫綬褒章
小泉進	(名誉教授)	瑞宝重光章
角所収	(名誉教授)	瑞宝中綬章
関谷全	(名誉教授)	瑞宝中綬章
堀茂徳	(名誉教授)	瑞宝中綬章
中西省三	(元医学部附属病院放射線部診療放射線(エックス線)技師長)	瑞宝双光章
石井和子	(元医学部附属病院医事課栄養管理室長)	瑞宝単光章

(総務部人事課)

西尾章治郎教授、原隆浩助教授「日本データベース学会論文賞」受賞

大学院情報科学研究科マルチメディア工学専攻の西尾章治郎教授と原隆浩助教授が、日本データベース学会から論文賞を受賞しました。この賞は、日本データベース学会 Letters に掲載された論文の中から、学術上極めて重要で我が国のデータベース研究の発展と



興隆に多大な貢献があると認められた論文に与えられる賞です。今年度は、平成17年度刊行の4誌に掲載された多数の論文から、特に優秀な2編が論文賞に選ばれました。

受賞論文は、「アドホックネットワークにおける消費電力を考慮した複製配置に関する一考察」です。この論文は、西尾教授と原助教授および2名の著者による計4名の共著論文であり、その中には、マルチメディアデータ工学講座(西尾研究室)に博士後期課程1年次生として在学中の篠原昌子さんが含まれています。

なお、授賞式は7月13日(木)に第5回日本データベース学会総会で行われました。

(大学院情報科学研究科)

松澤佑次名誉教授 国際肥満学会最高賞「ヴィレンドルフ賞」受賞

松澤佑次名誉教授は、肥満、生活習慣病に関して最も重要な研究業績を挙げた研究者に贈られる「ヴィレンドルフ賞」を本年9月にシドニーで開催された第10回国際肥満学会で受賞しました。この受賞は、現在世界的に問題となっている生活習慣病としての内臓脂肪症候群の概念確立とその分子メカニズムの解明に貢献したアディポネクチンの発見に至る研究成果が評価されたことによるものです。ヴィレンドルフ賞は、オーストリアの石器時代の遺跡から発見された肥満女性の石像「ヴィレンドルフのヴィーナス」に因んだもので、1980年に創設され、松澤名誉教授は世界では7人目、わが国では初めての受賞です。

(大学院医学系研究科・医学部)



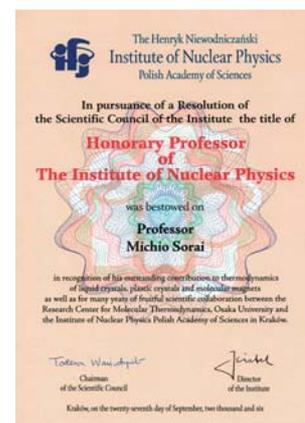
徂徠道夫名誉教授「ポーランド科学アカデミー名誉教授」の称号授与

そらい 徂徠道夫名誉教授に、「ポーランド科学アカデミー名誉教授」の称号が授与されました。液晶や柔粘性結晶、分子磁性体を対象とした物性熱力学への貢献と、クラクフ核物理研究所（ポーランド）と大阪大学理学研究科附属分子熱力学研究センターとの間の長年に亘る共同研究への貢献が認められたものです。選考理由の一つとなった両機関の共同研究体制は、1999年から正式なかたちで、政府間協定によるポーランド・日本科学技術共同プロジェクトとして今日まで継続しています。

これまでに選ばれた7名の名誉教授は、いずれもヨーロッパの核物理研究者ですが、クラクフ核物理研究所の一部門である凝縮系物理部門からの推挙は初めてで、日本人としても初めての名誉教授です。

授与式は、9月27日(水)にクラクフ核物理研究所の大講堂にて行われ、引き続き“Calorimetric Studies of Phase Transitions and Our Collaborations”と題する記念講演が行われました。

(大学院理学研究科・理学部)



福永伸哉教授「第19回濱田青陵賞」受賞

これからの考古学や関連分野を担う優れた研究者に贈られる今年度の濱田青陵賞（大阪府岸和田市・朝日新聞社主催）に文学研究科考古学講座の福永伸哉教授が選ばれ、9月30日（土）に岸和田市立文化会館で受賞式ならびに記念シンポジウムが行われました。この賞は、同市にゆかりが深く考古学の先駆者として偉大な功績を残した濱田耕作博士（号 青陵）の没後50年にあたる1988年に創設されたもので、今年度で第19回目となります。

福永教授は日本考古学専攻。全国の有力古墳から出土する三角縁神獣鏡（さんかくぶちしんじゅうきょう）の研究を基礎として、弥生時代から古墳時代に至る社会変化、大和政権成立過程などを斬新な視点から解明し、さらに国家形成論研究へと発展させた点が高く評価されました。また、大阪大学出版会から刊行した著書『邪馬台国から大和政権へ』（2001年）、『三角縁神獣鏡の研究』（2005年）などがとくに優れた業績として認められました。考古学講座では1989年の都出比呂志教授（現名誉教授）に続いての受賞となりました。

（大学院文学研究科・文学部）



熊谷信昭元総長(名誉教授)大阪文化賞受賞

熊谷信昭元総長が、本年度の大阪文化賞を受賞しました。

大阪文化賞は、学術・体育・生活文化等に顕著な業績を示されまたは寄与された方で大阪の文化に貢献のあった方々に対しその業績をたたえるため、大阪府・大阪市並びに大阪府教育委員会・大阪市教育委員会が昭和38年から贈呈しているものです。

今回の受賞は、新しい電磁波論の開拓と、今日電磁波工学と呼ばれている重要な工学の分野の学問・技術の確立に主導的役割を果たした業績が、科学技術の発展に大きな功績を残すとともに、大阪の学術文化の振興にも大きく貢献するものと認められてのものです。

贈呈式は、11月3日（金・祝）に大阪国際交流センター大ホールで行われました。

豊田政男工学研究科長「AWSフェロー」授与

大学院工学研究科長・工学部長の豊田政男教授に「AWSフェロー」の称号が授与されました。

AWS (American Welding Society : 米国溶接学会) は、アメリカに本部を持つ溶接・接合技術に関する世界最大の学会であり、AWSフェローは関連する分野で特筆すべき業績・貢献を挙げた者に与えられる称号です。

この度の称号授与は、溶接強度力学ならびに溶接破壊力学を軸とする構造強度評価工学の分野における優れた学術的業績が評価されたものであり、日本人として二人目のフェローの称号授与になります。

授与式は10月31日(火)に米国ジョージア州アトランタ市のジョージア国際会議場で、FABTECH International & the AWS Welding Show と同時に開催された第87回米国溶接学会年次大会の開会式において行われ、盾とメダルが授与されました。

(大学院工学研究科・工学部)



榎引俊宏特任講師「平成18年度日本レーザー医学会総会賞」受賞

大学院工学研究科の榎引俊宏特任講師が、「平成18年度日本レーザー医学会総会賞」を受賞しました。

日本レーザー医学会総会賞は、レーザー医学の基礎または臨床応用に関する貴重な研究を行い、その論文が特に優秀な研究者に授与されるものです。

受賞は『レーザーによる生体幹細胞の分化制御とそのメカニズム』に関するもので、赤外、可視光、紫外などの広範な領域のレーザー光を用いた幹細胞の細胞・組織への「分化指示」とそのメカニズムの解明だけではなく、種々の細胞・組織にむけた幹細胞の分化制御をレーザー技術により行っており、再生医療実現化へのブレークスルーとなるレーザー技術を創成、提案していることが評価されました。

授賞式は第27回日本レーザー医学会総会期間中の11月2日(木)に、千葉県幕張メッセ国際会議場において行われました。

(大学院工学研究科・工学部)



平成18年度第1学期共通教育賞表彰式挙行

大学教育実践センターでは、11月7日(火)に事務局301会議室において平成18年度第1学期共通教育賞の表彰式を行いました。

この賞は、全学共通教育の授業を担当する本学教員及び非常勤講師を対象として、優れた授業を実践した教員、優れた教科書等を著した教員、優れた著述を行った教員、並びに全学共通教育の実施運営に顕著な功勞のあった教員を表彰することによって、共通教育の質的向上を図ることを目的に平成14年度に制定されたもので、今回が9度目の表彰となりました。この顕彰制度が教育評価の先駆的な試みとして、本学の教育の発展に寄与することが期待されます。

共通教育賞の選考は、全学の教員及び学生を対象に行ったアンケート結果に基づき、選考委員会において、教育上の多大な努力や優秀な教育技術等を総合的に評価した結果、下記の20名の教員が選出されました。

表彰式では、宮原秀夫総長から表彰状と記念品の授与が行われ、高杉英一大学教育実践センター長、眞鍋昭治郎副センター長、和田榮史事務長も列席し、受賞者を祝福しました。



氏名	所属・職名	氏名	所属・職名
大庭 幸男	文学研究科 教授	Francoise Ratzlaff	言語文化研究科 外国人教師
平 雅行	文学研究科 教授	茶碗谷 毅	情報科学研究科 助教授
玉井 暉	文学研究科 教授	藤田 一郎	生命機能研究科 教授
下田 正	理学研究科 教授	鈴木 守	蛋白質研究所 助教授
渡部 隆夫	理学研究科 教授	北濱 榮子	留学生センター 教授
杉山 清寛	理学研究科 助教授	藤田 治彦	コミュニケーションデザイン・センター 教授
安田 誠	工学研究科 助教授	竹蓋 順子	サイバーメディアセンター 助教授
金子 元臣	言語文化研究科 教授	秋吉 宏尚	非常勤講師
井元 秀剛	言語文化研究科 助教授	菊原 伸郎	非常勤講師
日野 信行	言語文化研究科 助教授	谷口 真由美	非常勤講師

(大学教育実践センター)

寺尾 潤助手「ケイ素化学協会奨励賞」及び「Banyu Young Chemist Award 2006」受賞

大学院工学研究科附属原子分子イオン制御理工学センターの寺尾 潤助手が、「ケイ素化学協会奨励賞」を大阪大学で初めて受賞しました。この賞はケイ素化学工業および関連分野において学術上、業績のあった若手研究者(満40歳以下)の個人に授与されるものであり、授賞式は11月11日(土)に第11回ケイ素化学協会シンポジウムの通常総会において行われました。今回の受賞は、寺尾助手の「クロロシランを用いる新規触媒反応の開発」における業績が、アニオン性錯体が様々な反応形態で高い電子供与能を示し得る特性を活用し、これを電子受容体であるクロロシランと反応させることにより、これまで困難とされてきた分子変換を含む炭素-ケイ素結合形成の新手法を創出したとして評価されたものです。

また、寺尾助手は、「New Methodologies for Carbon-Carbon and Carbon-Silicon Bond Forming Reactions Using Anionic Transition Metal Complexes as Active Catalytic Species」における業績により、(財)万有生命科学振興国際交流財団から「Banyu Young Chemist Award 2006」も受賞し、11月18日(土)に授賞式が行われました。



「ケイ素化学協会奨励賞」賞状及び賞牌(左)と、「Banyu Young Chemist Award 2006」賞牌(右)

(大学院工学研究科・工学部)

新教授紹介

近藤 忠 (こんどう ただし)

大学院理学研究科



【略歴】

- 平元. 3 名古屋大学工学部卒業
- 3. 3 名古屋大学大学院理学研究科地球科学専攻博士前期課程修了
- 5. 4 名古屋大学大学院理学研究科地球科学専攻博士後期課程退学
- 5. 5 名古屋大学助手理学部
- 6. 1 東京大学助手物性研究所
- 7. 3 博士(理学)(名古屋大学)
- 10.10 東北大学助教授大学院理学研究科
- 18.10 大阪大学教授大学院理学研究科

所 属：大学院理学研究科宇宙地球科学専攻自然物質学講座
 専門分野：惑星内部物質学、超高压物理化学

金子 真 (かねこ まこと)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭51. 3 九州工業大学工学部機械工学科卒業
- 53. 3 東京大学大学院工学系研究科機械工学専門課程修士課程修了
- 56. 3 東京大学大学院工学系研究科機械工学専門課程博士課程修了
- 56. 4 通商産業省(現経済産業省)機械技術研究所(現産業技術総合研究所)
- 平 2. 4 九州工業大学助教授情報工学部
- 5.10 広島大学教授工学部
- 13. 4 広島大学教授大学院工学研究科
- 18.10 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科機械工学専攻知能機械学講座
 専門分野：ハイパーヒューマン工学

桑原 裕司 (くわはら ゆうじ)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭59. 3 京都大学理学部卒業
- 61. 3 京都大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了
- 平元. 3 京都大学大学院理学研究科化学専攻博士課程修了
- 元. 3 理学博士(京都大学)
- 元. 4 理化学研究所大型放射光研究協力員
- 元.10 理化学研究所表面界面工学研究室研究員補
- 2. 6 理化学研究所表面界面工学研究室研究員
- 8. 4 大阪大学助教授工学部
- 10. 4 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 18.10 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科精密科学・応用物理学専攻精密科学講座
 専門分野：表面物理化学

新教授紹介

中山 喜 萬 (なかやま よしかず)

大学院工学研究科



所 属：大学院工学研究科機械工学専攻複合メ
カニクス講座
専門分野：ナノ工学

【略歴】

- 昭47. 3 大阪府立大学工学部電気工学科卒業
- 47. 4 松下電器産業株式会社中央研究所
- 54. 4 大阪府立大学助手工学部
- 58. 3 工学博士(大阪大学)
- 62. 9 大阪府立大学講師工学部
- 平元. 4 大阪府立大学助教授工学部
- 4. 5 米国シカゴ大学ジェームスフランク研究所客員研究員
(~平5.1)
- 7. 4 大阪府立大学教授工学部
- 12. 4 大阪府立大学教授大学院工学研究科
- 15. 1 大阪大学特任教授大学院工学研究科兼任
- 17. 1 大阪府地域結集型共同研究事業研究統括兼任
- 18.10 大阪大学教授大学院工学研究科

渡 部 平 司 (わたなべ へいじ)

大学院工学研究科



所 属：大学院工学研究科生命先端工学専攻物
質生命工学講座
専門分野：表面科学、薄膜工学、半導体プロセス

【略歴】

- 昭63. 3 大阪大学工学部精密工学科卒業
- 平 2. 3 大阪大学大学院工学研究科精密工学専攻修士課程修了
- 2. 4 日本電気株式会社
- 6. 2 博士(工学)(大阪大学)
- 6. 2 技術研究組合オングストロームテクノロジー研究機構
- 7. 7 技術研究組合オングストロームテクノロジー研究機構主任
- 10. 2 日本電気株式会社主任
- 13. 6 日本電気株式会社主任研究員
- 16. 5 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 18.11 大阪大学教授大学院工学研究科

望 月 太 郎 (もちづき たろう)

大学教育実践センター



所 属：大学教育実践センター教育実践研究部
教育評価部門
専門分野：哲学・倫理学、高等教育論

【略歴】

- 昭60. 3 国際基督教大学教養学部人文科学科卒業
- 63. 3 大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了
- 平 3. 3 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程退学
- 3. 4 徳島大学講師教養部
- 5. 4 徳島大学講師総合科学部
- 6. 4 東海大学文明研究所講師
- 9. 4 東海大学文明研究所助教授
- 9. 6 博士(文学)(大阪大学)
- 10. 4 大阪大学助教授文学部
- 11. 4 大阪大学助教授大学院文学研究科
- 16. 4 大阪大学助教授大学教育実践センター
- 18.11 大阪大学教授大学教育実践センター

東風西風

思いつくままに

高橋 理 明



微生物病研究所（微研）と財団法人阪大微生物病研究会（阪大微研会）との関係

私は1991年3月に大阪大学微生物病研究所を退官して丁度15年になる。在籍中、ワクチン開発が主な研究テーマであったので、研究所と密接な関係にある阪大微研会の評議員や非常勤理事を長年兼ねていた。退官後1994年3月から常勤理事となり、主にワクチンの開発研究を担当して現在に至っている。

微研と阪大微研会の関係についてはよく国内外の方から質問をされるが、おそらく他にこのような例が少ないこともあり、簡単な説明では容易に納得してもらえない。どちらも昭和9年（1934年）に創立されたが、当時医学部細菌学教室教授であった谷口腆二先生が中心となって活躍されたと聞いている。私は阪大医学部を昭和29年（1954年）に卒業したが、その頃、谷口先生は既に退官しておられたのでその講義をお聞きすることは出来なかったが、そのお顔やお姿はよく覚えている。先生は昭和の初め当時気鋭の微生物、免疫研究者として東大伝染病研究所（伝研、現医科研）から阪大に赴任された。当時の伝研は研究のみならず、ワクチン（特に種痘）の製造まで行っていた。谷口先生は西日本における防疫の拠点として阪大微研を位置づけ、ワクチン製造を主目的とする財団法人阪大微生物病研究会を阪大微研内に設立されたのだと思う。当時大阪は繊維業が栄えており、繊維商社で成功しておられた山口玄洞氏（尾道市出身、数年前私は尾道市千光寺で氏のお墓で功績を記した碑文に接した）が微研設立に際し20万円、財団設立に対し5万円を基金として寄附され、それを基にして両者が設立された。それ以前に同じく繊維関係の竹尾治右衛門氏（私はそのお孫さんと旧制大阪高校時代同級生であった）が結核研究に50万円を寄附され、竹尾結核研究所が設立されていたが、微研創設に際し吸収され、竹尾結核研究部となった。いずれにしても当時では大金であり、微研の創立には大阪市民の熱意が大きな支えとなっていたことは事実である。しかしその名前はアメリカのように寄附者の名前が「ホール」のように具体的には残っておらず、だんだんと忘れられがちになっているのは残念である。しかし阪大微研会は微研の協力もあって次々と新しいワクチンの開発に成功し、現在では役職員300人を超え、日本のワクチンメーカー数社の中では有力な存在となっている。微研に対しても谷口奨学金など年間億を超える寄附及びその他の機関への協力行為を行っており、公益法人としての役割を果たし、ある意味では産学協同の一つの典型例となっているのではないかと考えている。

吹田キャンパスについて思い出すこと

私は名誉教授になってからも微研の一隅に阪大微研会の理事として15年余り勤め、吹田キャンパスの変遷をずっと見てきた。その間にどんどんと新しい建物が建てられ、高層建築もあり、その変貌ぶりは著しい。

本年7月末頃、我が家（千里ニュータウン青山台にある）のポストに大阪工業会主催のオペラ（演奏会形式）の案内が入っており、もともと私はオペラが好きであり、場所が吹田キャンパスのコンベンションセンターとなっているのでどんな所か見たいという気持ちもあって訪れてみた。ホールに入って冷房の効いていること、そしてその立派なことに驚いた。一流のホールに引けをとらない設備（椅子は移動式であったが）とオペラには程よい広さでモーツァルトのドン・ジョバンニが演奏された。オーケストラにはOBの方もおられた様だが、歌手はプロ又はプロ並でナレーション付きで約2時間半（休憩を含めて）の堂々の演奏で大感激であった。私の現役時代には大学の構内の建物でこのような立派な演奏を聞けるということとは考えられないことであった。

オペラ終了後帰途につくと、近くに医学部保健学科の立派な建物が目に入った。さきのコンベンションセンターホール、その近くの保健学科の建物をみて私は約20年前の総長室でのワーキンググループの長期計画委員会を思い出した。1985年頃、私は微研所長で山村雄一総長の総長補佐として長期計画を担当していた。その頃、医学部の移転は現在地に決定していたが、大学本部南側の空地、及び歯学部、薬学部間の空地については未決定であった。しかし早急に何を建てるかを決めておかないと、なしくずし的に建物が次々と建てられては困るということで、かなり真剣な討議が始まった。私は歯学部、薬学部間の空地には当時移転が問題になっていた医療技術短期大学部を移転し、本部南の空地には全学の講堂を建てることを提案した。それを決定する会議には総長、ワーキンググループ、事務局長以下事務官の方々が全員顔を揃えられ緊迫した雰囲気の下で行われたことを覚えている。その時事務局長から文部省の方針として固定席の講堂の建設は困難であるが移動席のコンベンションセンターなら可能であるとの見解が述べられた。また、総長から医療短大の移転地として歯学部、薬学部間の空地が今後のパラメディカルの重要性に鑑み適当であると述べられ、最後に事務局長から本日の討議は大学としての決定事項として記載すると述べられ、私はほっとしたことを思い出した。その後私は使者として関連三学部長を訪ね経緯を説明した。そしてあの時の長期計画が確実に実行され、かつ現実に活動しているのを目の当たりにして、心はずみながら帰途についた。

三好隆志教授(工学研究科)逝去



工学研究科教授 三好隆志先生は、10月10日(火)、膵臓ガンのため逝去されました。享年62歳でした。

先生は、昭和42年3月北海道大学工学部精密工学科を卒業後、同年4月シチズン時計株式会社に入社されました。昭和45年4月には北海道大学工学部助手に採用され、昭和62年3月同助教授を経て、平成3年10月大阪大学工学部教授に昇任、生産システム工学講座を創設され、その後、

平成10年4月同大学大学院工学研究科教授となりました。この間、長年にわたって広い視野と高邁な見識で学生の教育、研究の推進並びに後進の指導育成に努め、多くの優れた研究者、技術者を社会に送り出してきました。

先生は、精密工学の分野において、ナノメートル領域のものづくりの本質を加工=計測と捉え、高度な光技術をベースとした、ものづくりの基本となる加工および計測に関する新技術を開拓されました。

学内においては、各種委員会の委員を務め、特に工学部工作センター委員長として、大阪大学の発展にご尽力されました。学協会活動では、精密工学会の関西支部商議員および幹事、関西支部長、理事、副会長の要職を歴任し、型技術協会理事を長年にわたり務め、多大な貢献をされました。さらに、日本機械学会からはフェローの称号を授与されております。

おらかに周りをつつみこむように誠実に学生、後進の指導にあたられ、暖かな人柄で誰からも慕われた三好隆志先生のありし日のお姿を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

(大学院工学研究科・工学部)

記念講義

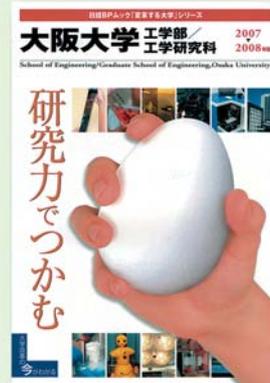
平成 19 年 3 月 31 日限りで定年等により退職される教授の記念講義を、日程等が決まったものについてお知らせします。

部局（講座・部門等）	氏名	日時・場所	講義題目
人間科学研究科 （人間科学専攻行動生理学講座）	山本 隆	2月15日(木) 14:40～16:10 人間科学部ユメヌホホール	未定
経済学研究科 （政策専攻応用経済講座）	本間 正明	1月25日(木) 14:00～16:00 法経講義棟5番教室	未定
経済学研究科 （経済学専攻理論分析講座）	今井 豊	1月26日(金) 13:00～14:30 法経講義棟1番教室	医療経済学の現状と課題
医学系研究科 （保健学専攻統合保健看護科学分野看護実践開発科学講座）	城戸 良弘	2月28日(水) 15:00～ 医学部保健学科第1講義室	食道外科・周手術期管理学と38年
医学系研究科 （保健学専攻統合保健看護科学分野総合ヘルスプロモーション科学講座）	小笠原 知枝	2月5日(月) 16:00～ 医学部保健学科第1講義室	看護学教師としての学びの軌跡
工学研究科 （応用化学専攻物質機能化学講座）	甲斐 泰	1月26日(金) 13:00～15:00 工学研究科U2棟311号室	美しい分子の世界を旅して
工学研究科 （精密科学・応用物理学専攻精密科学講座）	広瀬 喜久治	2月13日(火) 15:30～17:00 附属図書館吹田分館3階 視聴覚ホール	計算物理屋の40年
工学研究科 （精密科学・応用物理学専攻応用物理学講座）	増原 宏	1月25日(木) 14:30～16:10 工学研究科精密科学・応用物理学専攻P1棟311号室	マイクロ化学のサイエンスと生まれる研究新領域 - 4.5学部にわたる42年間の研究 -
工学研究科 （マテリアル生産科学専攻材料物性学講座）	山本 雅彦	1月22日(月) 13:00～14:30 工学研究科マテリアル生産科学専攻岡田メモリアルホール	ナノ材料科学に生きて
工学研究科 （電気電子情報工学専攻システム・制御工学講座）	辻 毅一郎	2月9日(金) 15:00～16:30 医学部銀杏会館阪急電鉄・三和銀行ホール	需要サイドからのエネルギーシステム論
工学研究科 （地球総合工学専攻社会基盤工学講座）	谷本 親伯	1月31日(水) 15:00～17:00 工学研究科GSEコモンウエ スト棟6階U1W-618号室	トンネルから地球環境まで
工学研究科 （地球総合工学専攻建築構造学講座）	今井 克彦	1月19日(金) 14:40～16:10 附属図書館吹田分館3階 視聴覚ホール	研究/その日その日(仮)
言語文化研究科 （言語コミュニケーション論講座）	津田 葵	2月22日(木) 15:30～16:30 言語文化研究科棟大会議室	多国籍化したカトリック教会の「共生」をめぐって - 21世紀COE研究プロジェクトから -
核物理研究センター （核物理実験研究部門）	永井 泰樹	2月23日(金) 16:00～ 接合科学研究所荒田記念館	原子核でみる宇宙

日経BP「変革する大学シリーズ」・「大阪大学工学部 / 工学研究科」「大阪大学基礎工学部」発行

大学院工学研究科・工学部は、受験生及び受験生の保護者等を対象に、工学研究科・工学部の魅力をアピールするため、『日経BPムック「変革する大学シリーズ」大阪大学工学部 / 工学研究科』を発行しました。

内容は、研究の先端性・独自性の紹介、教育内容の紹介、研究者の紹介等から構成されており、工学研究科・工学部の研究力を前面に打ち出してアピールするものとなっています。また、女子学生・女性研究者を優先して登場させ、自身のキャンパスライフや研究内容について情報発信することにより、女子学生の進路選択を促進するよう配慮しています。



基礎工学部は、基礎工学部および基礎工学研究科、情報科学研究科、生命機能研究科を目指す高校生・受験生および一般の読者を対象に、基礎工学部や各研究科の魅力をアピールするため、『日経BPムック「変革する大学シリーズ」大阪大学基礎工学部』を発行しました。

国立大学に設置された唯一のユニークな学部である基礎工学部のアイデンティティーをわかりやすく伝えるとともに、幅の広い教育内容、学際領域に創造される研究の魅力や研究者の熱意等を紹介する内容となっています。また、社会で活躍するOB・OGからのメッセージを通して基礎工学部の雰囲気間接的に読者に伝わるよう配慮しています。

ともに大型書店等で一般にも販売されており、価格は1,143円（税抜き）となっています。

（大学院工学研究科・工学部、大学院基礎工学研究科・基礎工学部）

大学知的財産戦略研修会

文部科学省と大阪大学知的財産本部の共催で、1月15日(月)に「大学知的財産戦略研修会」を開催します。

この研修会は、大学知財の管理・活用体制の状況報告や体制整備を図る上での課題について検討、検証、討議等を行い、技術的ノウハウの向上を図ることが狙いで、大学知的財産関係者・産学官連携関連職員、TLO関係者、NEDOフェロー等も含む企業産学連携担当者、地方自治体関係者、その他知的財産に興味を持つ学生・一般の方々を対象としています。

文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課の基調講演、武田薬品工業株式会社の秋元 浩常務取締役の特別講演と、2つのセッション、懇談会が行われます。

セッション1では、「大学特許の具体的なマーケティング方法」と題して、大学、TLO、技術移転企業の実務者が具体的な発明の把握、プレゼン、交渉等の方法を披露します。

また、セッション2は「持続的な産学官連携・知的財産管理体制の構築～大学職員の役割と育成の観点から～」をテーマに、産学官連携・知財分野における大学職員（事務・技術職員等）の役割・育成についての課題を共有しつつ、先進的事例を交えて解決策を議論します。

日 時：平成19年1月15日(月) 10:30～16:45（懇談会17:00～18:00）

場 所：千里阪急ホテル（仙寿の間）

定 員：150名

主 催：文部科学省、大阪大学（知的財産本部）

詳細は、大阪大学知財本部HP（<http://www.ipo.osaka-u.ac.jp/>）又は電子メール（seminar@ipo.osaka-u.ac.jp）でお問い合わせ下さい。

（知的財産本部）

第3回国際セミナー「ヨーロッパの高等教育政策 - 大学世界ネットワーク」

日 時：平成 19 年 1 月 10 日(水) 13:00 ~ 16:40
 場 所：大阪大学コンベンションセンター（吹田市山田丘 1 - 1）
 主 催：大阪大学大学教育実践センター
 後 援：京都大学、関西学院大学、大阪大学、大阪大学留学生センター

プログラム

- 13:00 ~ 13:10 開会の辞 鷲田清一（大阪大学副学長、教育情報室長）
- 13:10 ~ 14:10 講演「グローバル化時代の大学世界ネットワーク」
エリック・トマス（ブリストル大学学長、欧州大学世界ネットワーク会長）
- 14:10 ~ 14:40 コメント On-Kwok Lai（関西学院大学大学院総合政策研究科教授）
- 14:40 ~ 15:00 質疑応答
- 15:00 ~ 15:10 コーヒー・ブレイク
- 15:10 ~ 16:10 講演「首都大学東京の国際戦略」 西澤潤一（首都大学東京学長、元東北大学総長）
- 16:10 ~ 16:30 質疑応答
- 16:30 ~ 16:40 閉会の辞 横山俊夫（京都大学副学長、国際交流推進機構長）



参加費：無料

申込方法：参加希望者は直接ご参加ください。

問い合わせ：大阪大学大学教育実践センター 秦 TEL：06-6850-6964 FAX：06-6850-6954 E-mail：hada@cep.osaka-u.ac.jp

（大学教育実践センター）

第2回安心と安全のためのシンポジウム「安全・安心な教育研究環境を実現するには」

独立行政法人化によって大学職員の安全への意識はある程度高まりましたがまだ十分とは言えません。また、大学で専門課程を修めて世に出る者は、社会の安全・安心・健康に貢献する責務を負います。従来のトップダウン的な安全管理に頼るのではなく、教職員と学生が協力して取り組んでより安全な教育研究環境を実現すれば、その活動自体が、学生にとっては専門家としての責務をまっとうするためのOJTとなります。本シンポジウムでは、どのようにすればこのようなポトムアップ的な安全管理が実現できるかを考えます。

日 時：平成 19 年 1 月 30 日(火) 13:00 ~ 17:30
 場 所：大阪大学 銀杏会館 阪急電鉄・三和銀行ホール
 主 催：大阪大学大学院工学研究科
 共 催：大阪大学フロンティア研究センター、大阪大学安全衛生管理部
 後 援：文部科学省、科学技術社会論学会、横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センター、
金沢工業大学科学技術応用倫理研究所

会 費：無料（懇親会 18:00 ~ 銀杏会館レストランミネルバ 会費 4000 円（当日お支払い下さい）

申 込 み： 所属、氏名、電話番号、懇親会出席の有無、を明記し、sa@bio.eng.osaka-u.ac.jp宛にE-mailでお知らせ下さい。

問い合わせ：〒565-0871 吹田市山田丘 2-1 大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻 片倉啓雄

Tel/Fax: 06-6879-7436、E-mail: katakura@bio.eng.osaka-u.ac.jp

URL <http://www.bio.eng.osaka-u.ac.jp/ps/safety2/main.html>

プログラム（1月上旬に講演要旨をURLにアップロードいたしますのでご参照下さい。）

- 13:05 - 13:40 研究室での安全への取り組み - 大阪大学での好事例を中心に -
大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻助教 片倉啓雄
- 13:40 - 14:15 安全教育のススメ
大阪教育大学教育学部理科教育講座助教 西脇永敏
- 14:15 - 14:50 安全衛生教育の方法について
和歌山県立医科大学保健看護学部教授 森岡郁晴
- 15:10 - 15:45 事故分析から見た大学の安全管理
大阪大学安全衛生管理部助手 太刀掛俊之
- 15:45 - 16:20 愛媛大学の安全衛生への取り組み
愛媛大学大学院医学系研究科医学専攻特任講師 浜井盟子
- 16:20 - 16:55 産業現場での防災活動を見据えた安全・安心教育
㈱日鉄エレックス機械ソリューション技術部 堀田源次
- 16:55 - 17:30 総合討論

（大学院工学研究科・工学部）



適塾に魅せられて - 大阪大学と歩んだ30年 -

彫刻家

川合 敏 久

彫刻家・川合敏久氏の名前をご存じの方もいらっしゃると思います。

嵐山美空ひばり記念館の等身大のひばり像や各地の公園・広場のモニュメントなどを数多く手がけてこられました。

一方、淀川ワンドなどに生息する「イタセンパラ」など絶滅が危惧される淡水魚をモチーフにした作品をライフワークにしておられます。大阪大学とも縁が深く、とくに適塾には深い関心を寄せておられます。

現在、宝塚のアトリエで作品と向き合われている川合先生をお訪ねしました。

木村重信先生（大阪大学文学部名誉教授）とは師弟関係にあるとお聞きしましたが。

小さいときから美術に関心があったのですが、家庭の事情もあって一時遠ざかりました。20歳頃に漠然とではありますが、美術の世界に進みたいという気持ちが強くなって、京都市立美術大学（現京都市立芸術大学）彫刻科に進みました。そこで師事したのが木村先生です。それ以来、木村先生とは何かにつけご相談したりして公私にわたるお付き合いをさせていただいております。

大阪大学との関わりができたのはいつ頃からですか？

木村先生が京都美大から、武田恒夫先生（文学部名誉教授）とともに大阪大学文学部に移られ新しく美学科を創設（昭和48年）されたのを機にご縁ができたように記憶しています。それとは別に以前から畏敬の念を抱いていた適塾の緒方洪庵先生の肖像レリーフを制作（昭和50年）したことも大阪大学との関わりができるきっかけだったと思います。



北浜・適塾隣の公開空地に建つ緒方洪庵座像
（大阪北浜船場ライオンズクラブ寄贈）



川合敏久氏（宝塚市大原野のアトリエにて）

適塾関係では緒方洪庵のレリーフ以外にどのような作品をつくられていますか？

除痘館跡の記念碑銘板（昭和53年）、緒方洪庵座像（平成8年）、緒方八重（緒方洪庵夫人）レリーフ（平成9年）、大阪舎密局（せいみきょく）跡に建つハラタマ博士胸像（平成12年）などがあります。緒方洪庵座像とハラタマ博士胸像は大阪大学の名誉教授の先生からの依頼があって制作したものです。

適塾の先生方との交流も多いですね。

やはり医学部の先生方とのご縁がたくさんできました。伴 忠康先生（故人）、岩間吉也先生、多々羅浩三先生（いずれも現名誉教授）など。ハラタマ博士像の建立に尽力された芝 哲夫先生（理学部名誉教授）からは洪庵自身のことだけでなく八重夫人のこともいろいろ教わりました。八重夫人のことでは、伴先生がその著「適塾をめぐる人々」の中で、“適塾の偉大さは、緒方洪庵の偉大さによるものだが、病弱の洪庵と多くの門人のたちの世話を一手にひきうけて、門人から慈母のように慕われた八重夫人の内助の功を忘れてはならない”という言葉を書かれ非常に感銘を

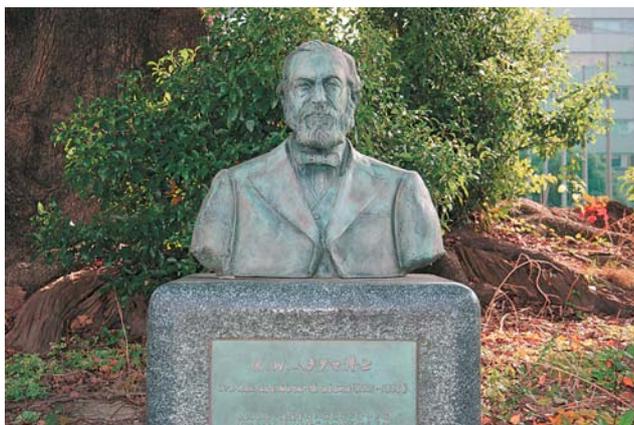
受けました。このときに八重夫人の像をつくりたいという意欲が芽生えました。

大阪大学との関わりでは、楠本賞のメダルもつくられていますね。

ある時、たぶん昭和51年頃だったと思います。木村先生から「相談したいことがあるから来てくれないか」と連絡がありました。相談は「卒業式で成績優秀者に贈る『楠本賞』のメダルを作製してくれないか。それも阪大にふさわしいオリジナルなものを」という内容のものでした。当時阪大では、造幣局に依頼してつくった既製のメダルを用いていたとのことでした。そして新しくつくったのが阪大のシンボルである、銀杏の葉をモチーフにしたブロンズ製のメダルでした。

現在のメダルは「2代目」ですね。

平成3年に阪大が創立60周年を迎え、これを機に学章を制定された。故田中一光先生が銀杏をモチーフにしたシンプルですが、洗練されたデザインの学章を作られた。このため、楠本賞のメダルをつくり替えてほしいという依頼が大学事務局からありました。もともと当初のメダルのデザインとして考えていた楠本長三郎総長の肖像レリーフを新しいメダルに復活させようと思いました。阪大事務局に残っている写真や楠本会館（産研）と医学部にある胸像などからイメージを膨らませて制作にとりかかりました。四男四郎氏やお孫さんの楠本正一先生（当時理学部教授、現名誉教授）に楠本長三郎先生の顔の表情や全体の印象を伺って作製しました。周囲の字体や全体のデザインについては木村先生の指導を受けながら新しいメダルを完成させました。



K.W.ハラタマ博士像（大阪市中央区）



現在の楠本賞メダル（表）



銀杏の葉をモチーフとした前楠本賞メダル（表）

もう一つの「絶滅危惧種の魚」をテーマにされたいきさつは何でしょうか。

これは昭和50年に大阪府で行われたコンクールに出品するテーマとして選んだのが最初です。琵琶湖淀川水系の固有種で、当時絶滅危惧種として特別天然記念物に指定されたイタセンバラを作品として取り上げました。河川のワンドに人知れずひっそりと生息する姿に惹かれました。他に北海道に生息しているイトウなども作品にしています。



希少淡水魚「いたせんばら」のメダル

新しい作品づくりはどのようなものですか？

数年前から体調を崩したこともあって少し遠ざかっています。新しい作品づくりのモチーフを探して、これから構想を練ろうとしているところです。これまでの作品を中心にした個展を年に何度か開いています。今、来年春に開く準備をしているところです。ぜひ皆さんに見ていただきたいと思っています。

<コメント>

夫人の季子さんは美大の1年先輩。互いに理解し、刺激し合いながら二人三脚で作品づくりと個展の準備を進めておられるご様子には、温かい雰囲気の流れが流れていました。

かわい・としひさ

昭和10年千葉県生まれ。昭和38年京都市立美術大学（現京都芸大）彫刻科卒業。日本美術家連盟会員、日本美術会会員、魚類自然史研究会会員、大阪市長賞受賞（昭和46年）、平成13年度憲法施行記念文化功労大阪府知事表彰、他
主な作品：昭和50年【緒方洪庵先生像】レリーフ 史跡適塾。昭和53年【除痘館跡 記念碑銘】ブロンズレリーフ くりにくい緒方ファサード 大阪市。平成6年【永遠に煌めく】美空ひばり全身立像 嵐山美空ひばり記念館 京都市。平成9年【緒方洪庵】等身大ブロンズ座像 適塾隣公開空地 大阪市。平成12年【K.W.ハラタマ博士】ブロンズ像 大阪市。平成12年【いたせんばら】ねんりんピック2000大阪記念メダル、他多数

プロフィール

オランダからEU、そして世界へ

～ グローニンゲン教育研究センターより～

グローニンゲン教育研究センター 地 石 雅 彦

みなさん、こんにちは。

グローニンゲン教育研究センター（以下、グローニンゲンセンター）で勤務中の地石と申します。前回（阪大Now, No.84, 2005年8月号）では、オランダ・グローニンゲンやセンターの紹介を中心に話を進めましたので、今回は実際の仕事の中身やヨーロッパでの生活について報告させていただきます。

グローニンゲン大学短期研修プログラム

8月29日(火)から9月17日(日)まで、文法経学部の学生20名が参加した短期研修プログラムがグローニンゲン大学において実施されました。このプログラムは、上述の学部及びグローニンゲンセンターが中心となり企画されたもので、グローニンゲン大学において提供されている英語コースを聴講するほか、新学期に開催される留学生向けの各種オリエンテーションに参加し、学生の異文化適応能力を養成すると共に、長期留学へのステップアップとなること



ホームパーティー



を目指しています。

学期始めに開催された留学生向けオリエンテーションは、市内中心部にある教会の中で執り行われました。大学や市役所関係者からの歓迎の挨拶を聞いた参加者は、ヨーロッパが持つ歴史を肌で感じると共に、留学生の一人としてグローニンゲンを訪問していることを実感したことでしょう。

オリエンテーションウィークを終え、参加者は各学部で英語により開講されている授業（文学、歴史、経済、法学等）を各自の希望に合わせて、オランダ人学生や世界各国からの留学生と共に聴講しました。当初は英語のレベルの高さや授業の方法の違いにとまどいを見せていた参加者ですが、徐々に周りの環境にも慣れ始め、外国での生活・学生との交流・授業への参加とプログラムを十分活用していました。

授業の合間には、グローニンゲン大学の担当者の自宅を訪問し、実際にオランダの家庭でのパーティーを体感すると共に、週末にはアムステルダムを訪れ、美術館・博物館

巡りを行うなど、充実した日々を過ごしました。

私はこのようなプログラムを担当することは初めてで、最初の方は、20名の名前すら覚えられず、年齢差もあることから、どう対応して良いかわからず苦慮しましたが、徐々に学生さんの本音も聞き出せるようになり、最後は20名の父親のような心境で、空港で見送る際、少し辛かったと思ったのは、今となれば良い思い出です。

留学説明会

10月にはグローニンゲン大学構内において、11月には日本学術振興会ボンセンター主催によりドイツ・デュッセルドルフにおいて実施された留学説明会に参加しました。

説明会では本学の概要や交換留学制度を中心にプレゼン



グローニンゲン大学での留学説明会



デュッセルドルフでの説明会

テーションソフトを用いて説明したほか、食べ物（うどん、お好み焼き、たこ焼き）や気質（商人の心、野球・サッカーの応援）と言った大阪に関する紹介を、大阪人らしく笑いをいれて行ったところ、大変好評を博しました。

場所を移し、地域毎に設けられたブースでは、本学への留学を希望する学生からの質問が多く寄せられました。

EAIE 年次総会

EAIE (European Association for International Education、<http://www.eaie.org/>) とはヨーロッパの高等教育機関の国際交流担当者が加盟する団体で、毎年開催される年次総会が2006年度はスイス・バーゼルにおいて開催されました。年次総会では、各大学や政府機関が設置したブースで関係機関の広報活動が行われるほか、ヨーロッパや世界各国における高等教育に関する情報を提供する講演会や、ケーススタディーを踏まえて、参加者の間で議論を行うセッションなどが執り行われました。今回この総会に初めて参加したのですが、規模の大きさ（参加者数が2,000名を超える）と提供される情報量（講演会・セッションを含めて100以上）に圧倒されました。しかしながら、回りの気迫に負けないように、最新の情報を入手することに加え、参加している関係者との交流を積極的に行い、本学の広報活動にも努めました。



EAIE 年次総会の様子

国境？

ここで話を少し変えますが、前述のように、近隣の各国にも出張するようになり、その時よく感じてしまうのですが、ヨーロッパにいと国境の概念が日本とは異なっているように思えます。

例えば、スイスのパーゼルで開催された EAIE の年次総会ですが、市内のホテルは多数の関係者で予約できず、近くのホテルを探したところ、フランスのとある町でホテルを確保できました。パーゼルはドイツとフランスとの国境に間近の町で、私が滞在したホテルからでもバスで15分もあればパーゼルまで移動できるとのことでした。当日の朝、パーゼル行きのバスの中では、国が異なる以上、当然検問があり、パスポートチェックを受けるだろうと気構えていたところ、検問所の横をバスが普通に通り過ぎ、気がつけばスイス国内に入ってしまったことにはいささか拍子抜けでした。ただ、それまで回りがフランス語一色だったのが、急にドイツ語へと変化したときには国境を越えたと感じさせられました。

また、私が住んでいるグローニンゲンもドイツ国境まで約50キロのところには位置しており、車で30分もあればドイツに行くことができます。初めて車でドイツを訪問した時には、やはりパスポートを持ち、検問での質問はと気構えていたところ、高速道路の横に大きな看板で「Deutschland」と書かれているだけで、検問所すらなかったことに、唖然



オランダの免許証

としました（正確に言えば、シェンゲン協定加盟国では、出入国審査が省略されるため、検問がないと言うことを後日知りました）。

ドイツ国境では自動車の制限速度が国名の下に情報として表示されており、オランダの高速道路では120キロが制限ですが、ドイツ国内では130キロ（いわゆるアウトバーンでの推奨速度）となります。また、オランダの高速道路は進入路が長く取られており、楽に高速道路へ入ることができるのですが、ドイツでは200～300mしか取られておらず、制限速度以上で走る車に気をつけながら高速道路に入ることは今でも神経を使います。このように、国によって交通政策すら異なることも大変興味深いです。

EU それとも国？

個人的には、EU統合が進み、国境があっても国ごとの差異は、言葉や建築物、既存の規則と言った一部の固有のものを除き希薄になりつつあるような印象を受けているのですが、国としてのアイデンティティは依然として強く存在しているようで、教育制度に関しても同様に、各国独自の方針を打ち出しています。

ヨーロッパでは、ボローニャプロセス (http://www.jpf.gov.jp/j/japan_j/publish/euro/pdf/01-2.pdf) というものが1999年に導入され、ヨーロッパ内の大学における国際化が加速することになりました。これまではヨーロッパにおける修了年限は国により異なっていましたが、学部は3年、修士は1年と統一的な課程へと制度を移行させたり、各国共通の単位互換制度を導入し、ヨーロッパ内の学生の流動性を高めたりと、共通のフォーマットによる制度化を行い、国際化の促進に努めています。

しかしながら、その具体的な方針は国により異なります。オランダでは他国からの留学生受け入れに当たっては、マイノリティーであるオランダ語ではなく、英語による授業数を増やし、ヨーロッパ各国（世界各地からも）が

らの留学生数増加を目指しています。例えば、グローニンゲン大学においては、英語による学位コースは、修士レベルを中心に80～100以上、他の大学では修士レベルは一部の特定の分野（オランダ文学等）を除き、全て英語で実施するということさえ存在します。一方ドイツでは、英語による授業や英語による学位コースも実施されていますが、その数はオランダと比べると遙かに少ないのが現状です。これは、ドイツにおいてはドイツ語で教育することが重要であるとの意識が大学内に存在し、依然として大半のコースがドイツ語で提供されています。

EU統合が進み、その恩恵を享受する一方で、国としての理念は依然として固持しており、EU統合と国家とを両立させているヨーロッパ各国の現状が、教育制度からも見受けられます。

最後に

オランダでの勤務開始から既に1年半以上が経過し、いくつかのプログラムを実施してきたほか、オランダを含めたヨーロッパの大学・高等教育の実情を調査してきました。

日本はヨーロッパとは全く異なるシステムの上に成立していますので、ヨーロッパの関係機関と本学との連携は、アカデミックな面でも、プラクティカルな面でも容易ではないかもしれません。そんな中、これまでのオランダでの経験を生かし、両者の間を取り持つコーディネーターとしての役割を果たすと共に、大阪大学がオランダやEUサイドから世界へと飛躍する一翼を担うことが出来れば嬉しいです。

追記

10月末から夏時間から冬時間へと変わり、日が暮れる時間がさらに早くなりました。寒さもより強く感じられるようになり、これから長い冬が始まるかと思うと少し憂鬱になります。そんな時には、様々なデザインでライトアップされた町中を歩くと少し楽しい気分になります。また、寒い夜にランプで照らされた揚げドーナツ（Oliebollen）の屋台からは香ばしいにおいがし、湯気が立ち上がるのを見ると、もうすぐクリスマスなのだなと実感する2度目のオランダの冬でした。



ライトアップされる市役所とドーナツの屋台

ちせき・まさひこ

プロフィール

研究推進・国際部国際交流課海外拠点支援係主任

平成9年大阪大学総務部人事課採用、その後、法学部、文科系事務部へ異動。文科系事務部在籍中の平成13年9月イギリス・ダラム大学へ海外研修制度により1年間派遣。帰国後は、研究協力部留学生課に所属。平成15年4月国際交流課へ異動後、オランダへ派遣。

クラブ&サークル紹介

軽音楽部(Swing) 猫も杓子もジャズな気分

軽音楽部 Swing は主にビッグバンド（他にはジャズコンボ、ファンク、フュージョン、コンテンポラリーバンドなど）の演奏を中心に活動しています。楽器はサクソ、トランペット、トロンボーン等の管楽器のほかピアノ、ギター、ベース、ドラム、ヴォーカルなどのパートがあります。

毎年6月ごろから1、2回生のみで構成される“D軍（でーぐん）”と呼ばれるビッグバンドがはじまります。参加は自由ですが、毎年大半の部員はこのバンドに参加しています。D軍以外で各人が自由にバンドを組んでもらっても構いません。

基本的には2回生の定期演奏会（12月）をもって引退という形になりますが、引退後も多くの部員が大学祭や定期演奏会には積極的に参加しています。

その他にも3月と8月には小豆島と長野で合宿があります。

活動の一例として、我が部の看板ビッグバンド、The New Wave Jazz Orchestra（以下NW）を紹介します。ビッグバンドとはジャズの演奏のスタイルのひとつで、基本的にはトランペット4人、トロンボーン4人、サクソ5人、ドラム、ベース、ピアノ、ギターの計17人で構成されています。ビッグバンドの魅力は大人数ならではの迫力の



あるサウンド・アンサンブルに加えて、ジャズの醍醐味であるアドリブ（即興）演奏の要素を併せ持つところでしょうか。

主な活動内容は4月と11月に行われる学園祭への参加、4月の大阪城ジャズフェスティバル、7月の天神祭船渡御「阪大船」での演奏、8月の山野ビッグバンドジャズコンテスト、12月の定期演奏会、そしてラストライブです。中でも、毎年8月に東京で行われる山野楽器（株）主催の“山野ビッグバンドジャズコンテスト”には結成以来ほぼ毎年参加し、過去には何度も上位入賞も果たしています。2006年は全国から集まった40バンド中、第3位という素晴らしい成績を残しました。

メンバーは1、2年生を中心に構成され、1月からコンサートマスターをはじめメンバーの入れ替えを行なう世襲制度をとっていますので、毎年12月のラストライブをもって一旦解散となります。

近年の主なレパートリーとしてはカウントベイシーのナンバーを演奏しています。代表曲の「パリの四月」などは普段ジャズをあまり聴かない方でもどこかで耳にされたことがあるかもしれません。

活動を通して関西の他大学に所属するジャズ系のサークルとも活発な交流をしています。

部長 当村 邦明(文・3年)



コメント

随時部員を募集しています。
楽器初心者も大歓迎です。

練習場所：明道館（豊中キャンパス）
練習日時：火・木・土にD軍の練習があり、他にも基本的
にいつでも自由に練習できます。
部員数：男55人 女34人
連絡先：low-c.low-p.high-r@ezweb.ne.jp（当村）
URL：http://www.geocities.jp/keion_swing/

編集後記

本年度の文化勲章受章者に荒田吉明名誉教授が、文化功労者に松原謙一名誉教授と山崎正和名誉教授が選ばれました。長年の研究が評価されての今回の栄誉は、大阪大学関係者として大変喜ばしいことでした。この秋には他にも様々な方が、数多くの賞等を受けられました。皆様おめでとうございます。今秋は前号でご紹介いたしました七大戦の総合優勝など、大阪大学として吉事が多かったように思います。

また、この秋には大阪大学の3番目の海外拠点であるバンコク教育研究センターの開所式と、大阪大学バイオ関連多目的研究施設の創設記念式典も行われています。研究のみならず東南アジアと大阪大学、近隣地域と大阪大学の関係をより強めていくこととなるこれらの施設は、「地域に生き世界に伸びる」大阪大学をよりいっそう進めていく力となるでしょう。

（瀬尾）

中之島センターにクリスマスツリーが登場



今年も中之島センターでは恒例のクリスマスツリーが飾られ、来館者を楽しませています。今年は正面玄関上部に星形のイルミネーションも登場し、にぎやかさを増しました。

飾りつけは12月26日(火)まで。

大阪市北区中之島4-3-53

TEL: 06-6444-5214 (2106)

大阪市バス53系統 玉江橋より徒歩2分

<http://www.onc.osaka-u.ac.jp>



阪大NOW 2006年バックナンバー



阪大NOWを1年間ご愛読いただきありがとうございました。1月号から表紙デザインを一新し、好評を得ています。“より強いインパクトを持たせる”をコンセプトに、表紙写真も迫力あるカメラアングルで撮影してきました。撮影いただいた理学研究科・山本 仁先生のご協力に感謝いたします。来年も新たなコンセプトでより質の高い広報誌を目指してまいります。

評価・広報課長 松本紀文

交流協定大学紹介

忠南大学校(大韓民国)

Chungnam National University



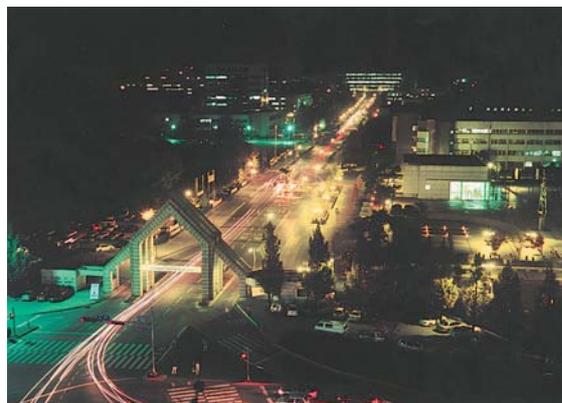
忠南大学全景

1952年に設立された忠南大学校はソウルから一時間の北に位置しており、54年の歴史の中で、中部圏を代表する国立大学としての役割を果たしています。26,000名の学部学生、4,600名の大学院学生、1,100名の教授、350名の教職員で構成され、約14万人の卒業生は地方、国家機関及び民間で活躍しているとのことです。100あまりの学部学科と大学院、7つの特殊大学院で多様な学問分野の研究が行われ、全世界27ヶ国、95校の大学と学術交流協定を締結しており、20ヶ国600余名の外国人留学生在が在学し、また、新しい国際化の動きに合わせて

世界各国の大学等と共同学位プログラムを運営中です。

忠南大学校は大徳研究団地と大徳R&D特区を基盤とした研究中心の大学で、教授一人当たり科学技術関連論文掲載順位は全国2位、教授優秀論文賞部門で全国2位となっています。また、約10分の距離にソウルの機能を担う行政中心複合都市が開発中で、ここに公共政策大学院を設立して大学発展の新しい原動力として活用する計画です。

本学とは2006年9月に大学間交流協定を締結しました。このような伸び盛りの忠南大学校の教員、学生との学術交流を通じて、両大学が発展することが期待されます。なお、両大学間交流協定の締結を記念して、2007年1月25日～26日に、忠南大学校から学長をはじめ多くの教員・学生が来学して、ナノサイエンス・ナノテクノロジーに関する2大学間共同シンポジウムを開催する予定です。



忠南大学夜景入り口付近

所在地：220 Gung-don, Yuseong-gu,
Daejeon, 305-764
Republic of Korea
<http://www.cnu.ac.kr>

阪大NOW No.93 2006 12月号

2006年12月20日発行

編集・発行 大阪大学総務部評価・広報課 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1
TEL: 06(6879)7017 FAX: 06(6879)7166
ホームページアドレス <http://www.osaka-u.ac.jp>

「阪大NOW」へのご意見、お問い合わせ、記事の提供等がありましたら、下記までお寄せ下さい。
E-mail: souhyokoukohou@ns.jim.osaka-u.ac.jp